

令和元年度
新潟県立看護大学
自己点検評価報告書

－専任教員の活動業績－
－各種委員会等の活動報告－

令和2年3月



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

専任教員の活動業績

1 研究、社会及び学内教育活動業績

(1) 制作要件

「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」について、令和元年4月から令和2年3月までの12ヶ月間の期間について、本学の在職各教員から申告のあった国内外における活動（業績）の一覧である。

ア 令和元年12月末日までに退職ないし転職している教員のものは含まない。

イ 原則として、各教員から提出されたものを修正せず掲載する。

ウ 掲載の順番は領域順・科目群順とし、個人は令和2年3月現在の職位順ついで採用順に掲載する。

エ 掲載に際して職位名等は入れず、氏名のみの表示とする。

オ 令和元年4月以降12月までに着任した専任教員の業績についても、ウに従って掲載する。

<p>(2) 活動業績掲載順</p> <p>【共通科目】</p> <p>I 人間環境科学領域</p> <p>社会科学 藤田 尚…………… 1 渡辺 弘之…………… 3 徐 淑子…………… 4</p> <p>情報科学 中村 義実…………… 6 永吉 雅人…………… 7 エルダトン・サイモン… 9</p> <p>II 自然科学領域</p> <p>生物・医学 境原 三津夫…………… 11 堀江 正男…………… 13</p> <p>【専門科目】</p> <p>III 基礎看護学領域</p> <p>看護教育学 舟島 なをみ…………… 14 看護管理学 岩永 喜久子…………… 17 基礎看護学 岡村 典子…………… 19 川島 良子…………… 21 谷内田 潤子…………… 22 山岸 美奈子…………… 23 上坂 唯子…………… 24</p> <p>IV 臨床看護学領域</p> <p>成人看護学 石田 和子…………… 25 高柳 智子…………… 27 酒井 禎子…………… 28 山田 正実…………… 30 樺澤 三奈子…………… 31 小林 綾子…………… 33 石原 千晶…………… 34 石岡 幸恵…………… 36 相澤 達也…………… 37 坂田 智佳子…………… 38</p>	<p>小児看護学 大久保 明子…………… 39 野澤 祥子…………… 41 室 亜衣…………… 42 小林 宏至…………… 43</p> <p>母性・助産看護学 中島 通子…………… 44 西田 絵美…………… 46 阿部 正子…………… 47 天谷 まり子…………… 48 杉山 泰子…………… 49 上田 恵…………… 50</p> <p>V 地域生活看護学領域</p> <p>老年看護学 小野 幸子…………… 51 原 等子…………… 53 河原畑 尚美…………… 55 大口 洋子…………… 57 東條 紀子…………… 58</p> <p>精神看護学 長谷川 雅美…………… 59 田口 玲子…………… 61 後田 穰…………… 63 安達 寛人…………… 64 船山 健二…………… 65</p> <p>地域看護学 平澤 則子…………… 67 高林 知佳子…………… 69 川野 英子…………… 71 井上 智代…………… 73 野口 裕子…………… 75 前川 絵里子…………… 77 久保野 裕子…………… 78</p> <p>【学 長】 小泉 美佐子…………… 80</p>
---	--

藤田 尚

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(4件)

- 1) 藤田尚(2019.5), Distribution of Caries cavities in the Nukdo skeletal remains, South Korea., 第62回韓国自然人類学会大会(韓国済州国立病院)
 - 2) 藤田尚(2019.5), A case report on Iron age human fractures in Mongolia probably due to the horse riding habits., 第62回韓国自然人類学会(特別講演・座長)(韓国済州国立病院)
 - 3) 藤田尚(2019.5), The Facial Morphology of Ancient Koreans. Reconstructing Life Conditions through Skeletal Analysis from Archaeological Sites in Korea., 2019 Global Korean Studies, Asia Center, Seoul National University(招待講演)(韓国ソウル)
 - 4) 藤田尚(2019.11), モンゴル西部チャンドマン山から出土した鉄器時代人骨の古病理学的分析, 日本古病理学研究会第4回大会(東京大学)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本解剖学会
- ・ 日本人類学会 評議員
- ・ American Journal of Physical Anthropology
- ・ 日本老年歯科医学会 代議員
- ・ 日本古病理学研究会 会長
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本老年社会科学会
- ・ 日本応用老年学会
- ・ 日本考古学協会
- ・ 早稲田大学考古学会 評議員
- ・ Asia-Pacific Paleopathology Forum 初代会頭エレクト
- ・ 日本古病理学研究会第4回大会 学会長

【社会活動】

- ・ 月刊 nico2019年4月号-2020年3月号

【学内教育活動】

学 部：基礎ゼミナール7, 自然人類学, ふれあい実習, 専門ゼミナール1, 専門ゼミナール2
博士前期課程：人類学特論
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員, 倫理委員会副委員長, 情報ネットワーク特別委員会委員, 情報ネットワーク実行部会委員

【外部資金獲得】

- 1) 藤田尚(研究代表者)
藤澤珠織、針原伸二、小池潤、巖城隆(2018～2020)：古代人における疾患の解明と看護・介護の復元，科学研究費助成事業（挑戦的研究萌芽）
- 2) 高橋龍三郎(研究代表者)
藤田尚、太田博樹、米田穰(2018～2021)：縄文時代の氏族性社会の正立に関する考古学と集団遺伝学の共同研究，科学研究費助成事業(基盤研究 A)
- 3) 岡本珠織(研究代表者)
藤田尚、北原かな子、石丸理恵子(2016～2019)：発掘人骨の古病理学的ストレスマーカーに見える性別役割，科学研究費助成事業(基盤研究 C)
- 4) 渋谷綾子(研究代表者)
藤田尚(2019～2019)：遺跡出土人骨の古病理学的解析による口腔衛生史の復元と口腔疾患の前兆解明，COI(日本科学技術研究機構センターオブイノベーションプログラム)

渡辺 弘之

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

1) 大場重治, 境原三津夫, 渡辺弘之他

健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための「地域連携 commons」形成の試み, 上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ じょうえつ外国人医療プロジェクト
- ・ 上越教育大学研究倫理審査委員会
- ・ 入院患者の QOL 向上プロジェクト (ベトナム)
- ・ エラスムス医科大学ハンセン病による障害測定 t 新基準プロジェクト (オランダ)
- ・ ベトナム・入院患者の QOL 向上プロジェクト主催「QOL の測定ツールの種類について」講師

【学内教育活動】

学 部：ふれあい実習, 社会学, 社会福祉概論, 基礎ゼミナール, ふれあい実習, 地域社会と住民組織, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員, 国際交流委員会委員, 図書委員会委員

アウトドアサークル、バンドサークル、ほしみサークル、手話サークル、フットサルサークルサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 渡辺弘之(研究代表者) (2019~2022)：ベトナムのハンセン病元患者の子どもが持つ「傷つきやすさ」とエンパワーメント支援, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

徐 淑子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(4件)
 - 1) 徐淑子(2020.1), オランダにおける大麻政策とハームリダクション, 精神科治療学, 35(1),pp27 - 33(査読無)
 - 2) 徐淑子(2019.6), 諸外国における大麻合法化の動きと日本の薬物乱用防止教育 : ヘルスキューンにおける「信頼」の問題, 日本ヘルスキューン学会雑誌, 10(1),pp49 - 54(査読有)
 - 3) 徐淑子, 池田光穂(2019.7), ハームリダクション:概念成立の背景と日本における語の定着について, CO* Design, 6,pp51 - 62(査読有)
 - 4) 樽井正義, 生島嗣, 徐淑子, 山本大(2020.3), ダルクにおける MSM・HIV 陽性者支援の調査, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究」令和元年度総括・分担報告書, pp1 - 14(査読無)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 徐淑子, 池田光穂(2019.6), しきいの低いサービス(low-threshold service)とは何か～ヨーロッパにおける薬物使用者らを対象とした社会的ケアの事例より～, 第 34 回日本保健医療行動科学学会学術大会(奈良春日野国際フォーラム (奈良県))
 - 2) 池田光穂, 徐淑子(2019.5), ハームリダクション受容過程における日本化について, 第 45 回日本保健医療社会学会大会(東京慈恵会医科大学国領キャンパス (東京都))
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本保健医療行動科学学会 会員
- ・ 日本健康教育学会 会員
- ・ 日本保健医療社会学会 会員
- ・ 日本エイズ学会 会員
- ・ 日本ヘルスキューン学会 会員
- ・ 日本アルコール関連問題学会 会員
- ・ International Sociological Association (国際社会学会) 会員
- ・ 第 33 回(2019 年度)日本エイズ学会学術集会・分科会「薬物使用」座長
- ・ 第 34 回(2020 年度)日本エイズ学会学術集会プログラム委員

【社会活動】

- ・ 徐淑子, 身近な「ハマる」から考える嗜癖と依存, にいがた市民大学 (大学コンソーシアム連携講座), 万代市民会館, 2019 年 7 月 27 日.
- ・ 徐淑子, 身近な「ハマる」から考える嗜癖と依存, 上越教育大学・新潟県立看護大学連携公開講座, 上越教育大学, 2019 年 7 月 7 日.
- ・ 徐淑子, LGBT ブーム?の看護界からナースのタマゴ 4 名+教員で参加しました, ふれいす東京ニュースレター 2019 年 5 月号 3 頁
- ・ NPO 法人ふれいす東京
- ・ NPO 法人新潟マック
- ・ 新潟ダルク・ニューズレター編集協力

【学内教育活動】

学 部：基礎ゼミ 2,ふれあい実習,保健・医療行動科学,専門ゼミナール I,専門ゼミナール II

博士前期課程：健康社会学

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

FD 委員会副委員長,入学委員会委員,研究推進委員会委員,ハラスメント相談員相談員

学年担任,2018 年度採択学内共同研究助成成果発表会 担当 (研究推進委員会)

【外部資金獲得】

1) 徐淑子(研究代表者)

池田光穂(2018～2020)：ハーム・リダクションと薬物依存者への社会的ケア:東アジアへの影響、移入、展開 (課題番号 18K02068) , 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

2) 樽井正義(研究代表者)

若林チヒロ、大木幸子、生島嗣(2018～2020)：地域において MSM の HIV 感染・薬物使用を予防する支援策の研究, 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

中村 義実

1. 原著論文(1件)

1) 中村義実(2020.2) : コミュニケーション論再考X－英語民間試験の限界を越える授業実践, 敬和学園大学研究紀要, 29,pp149 - 167(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(1件)

1) 中村 義実、サイモン エルダトン(2019.5) : デニス英語に挑む!, 大学教育出版(岡山)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 全国看護英語教育学会
- ・ 異文化コミュニケーション学会
- ・ 異文化間教育学会

【社会活動】

- ・ 敬和学園大学非常勤講師
- ・ 埼玉大学教養学部寄附講座講師

【学内教育活動】

学 部 : 英語ライティング1・2,英語リーディング1・2,英語ライティング3・4,基礎ゼミナール,ふれあい実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員長,教務委員会委員,入学委員会委員,研究科委員会委員

【外部資金獲得】

なし

永吉 雅人

1. 原著論文(1 件)

- 1) Nagayoshi Masato, Simon J. H. Elderton and Hisashi Tamaki(2020.3) : A Promoting Method of Role Differentiation using a Learning Rate that has a Periodically Negative Value in Multi-agent Reinforcement Learning, Journal of Robotics, Networking and Artificial Life, 6(4),pp221 - 224(査読有)

2. その他論文(2 件)

- 1) 永吉雅人, Simon Elderton, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子, 境原三津夫, 大庭重治(2020.3) : 化学物質過敏症-上越市における調査結果に基づいて-, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 26,pp39 - 41(査読有)
- 2) 永吉雅人, 佐々木琴音, 秋山真穂, 五十嵐由夏, 小柳星花, 織原みゆき, 風間陸, 佐藤真奈, 中村美稀, 早川菜, 氷見優奈, 深澤綾美, 吉田梨乃(2020.3) : 障害者に関するシンボルマークの認識と利用実態調査, 新潟の生活文化, 26,pp22 - 24(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(6 件)

- 1) Masato Nagayoshi, Simon Elderton, Hisashi Tamaki(2020.1): A Promoting Method of Role Differentiation Using a Learning Rate that Has a Periodically Negative Value in Multi-agent Reinforcement Learning, International Conference on Artificial Life and Robotics 2020 (ICAROB'20)(Oita, Japan)
- 2) 安達寛人, 中村幸恵, 永吉雅人, 岡村典子(2019.6) : 医療観察法病棟における勤務計画表作成に関する実態調査, 日本精神看護保健学会第 29 回学術集会(愛知)
- 3) 永吉雅人, エルダトン・サイモン, 玉置久(2019.9) : 強化学習における「認知の歪み」を利用した役割分化の促進 : 周期的に負の値をとる学習率に関する基礎的検討, 2019 年電気学会電子・情報・システム部門大会(沖縄)
- 4) 永吉雅人, エルダトン・サイモン, 玉置久(2019.11) : マルチエージェント強化学習における周期的に負の値をとる学習率に関する基礎的検討, 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会(SSI2019)(千葉)
- 5) 永吉雅人, エルダトン・サイモン, 玉置久(2019.12) : マルチエージェント強化学習における周期的に 1 以上の値をとる割引率に関する基礎的検討, 電気学会システム・制御合同研究会(兵庫)
- 6) 渡辺沙織, 椿竜雅, 中村幸恵, 永吉雅人(2019.12) : A 病院における, 暴力対応知識の現状把握-「患者からの暴力に対する対応知識チェックリスト」を用いて-, 日本こころの安全とケア学会 2019 年第 2 回学術集会(佐賀)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 大庭重治, 境原三津夫, その他 22 名 : 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための「地域連携コモンズ」形成の試み, 平成 30~31 年度上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

- ・ 電気学会 論文委員会 (C2 グループ) 副主査
- ・ 電気学会 電子・情報・システム部門 編修委員会
- ・ システム制御情報学会
- ・ 計測自動制御学会
- ・ 電気学会
- ・ 日本遺伝看護学会
- ・ 室内環境学会
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本精神保健看護学会

- ・ 令和2年電気学会全国大会5 グループ論文委員会 主査
- ・ 電気学会電子・情報・システム部門大会 GS9 機械学習(II) 座長
- ・ 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2019 SS11 システム・シミュレーションと最適化手法
オーガナイザ

【社会活動】

- ・ 新潟県立上越総合技術高等学校 学校評議員
- ・ どこでもカレッジ公開講座「わかりやすいプレゼンテーションのやりかた」講師
- ・ どこでもカレッジ公開講座「看護研究のための統計処理 (Excel を用いて)」講師
- ・ 過剰消毒 苦しむMCS患者, 北海道新聞, 第27773号(日刊) (2020年3月22日発行), 北海道新聞社.
- ・ NPO 法人 関川水辺クラブ
- ・ NPO 法人 新潟県難病相談支援センター
- ・ A病院における、暴力対応知識の現状把握—「患者からの暴力に対する対応知識チェックリスト」を用いて—
- ・ 電気学会 電子・情報・システム部門 システム技術委員会 先端システムの超知能化を指向した機械学習
技術協同研究委員会 委員
- ・ 電気学会システム・制御合同研究会 制御工学と機械学習の最新動向 オーガナイザ

【学内教育活動】

学 部：情報処理演習,情報科学,疫学,ふれあい実習,基礎ゼミナール,保健統計演習,ボランティア活動
 博士前期課程：看護情報統計学
 博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

情報ネットワーク特別委員会委員長,情報ネットワーク実行部会委員長,学生委員会委員,研究推進委員会委員
 学年担任,水研究, ソフトテニス, バスケットボールサークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 永吉雅人(研究代表者) (2019~2021)：強化学習によるメンバーシップ向上に寄与する共創的ナース・スケ
 ジューリングシステム, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

1. 原著論文(1件)

- 1) Nagayoshi Masato, Simon J. H. Elderton, Hisashi Tamaki(2020.3): A Promoting Method of Role Differentiation using a Learning Rate that has a Periodically Negative Value in Multi-agent Reinforcement Learning, Journal of Robotics, Networking and Artificial Life, 6 (4) ,pp221 - 224(査読有)

2. その他論文(1件)

- 1) 永吉雅人, Simon Elderton, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子, 境原三津夫, 大庭重治(2020.3) : 化学物質過敏症-上越市における調査結果に基づいて-, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 26,pp39 - 41(査読有)

3. 著書(1件)

- 1) 中村義実, サイモン エルダトン(2019.5) : デニス英語に挑むーさらば! お勉強英語ー, 大学教育出版(岡山)

4. 学会発表(6件)

- 1) 北村千章, Simon Elderton, 林伸彦, 中込さと子, 安河内聡, 稲葉雄二, 石黒浩毅, 榎本淳子, 桐生徹(2019.6) : 22q11.2 欠失症候群の子どものための就学ガイドの活用, 第66回日本小児保健協会学術集会(東京)
- 2) Chiaki Kitamura, Simon Elderton, Nobuhiko Hayashi, Kaori Kuraishi, Lloyd Teh, Hiroki Ishigoro, Satoko Nakagomi, Satoshi Yasukouchi, Junko Enomoto(2019.7): Continuing Research to Provide Coordinated Care for Patients with 22q11.2 Deletion Syndrome, 第13回国際口唇口蓋裂協会学術大会合同学術集会(愛知)
- 3) 永吉雅人, エルダトン・サイモン, 玉置久(2019.9) : 強化学習における「認知の歪み」を利用した役割分化の促進: 周期的に負の値をとる学習率に関する基礎的検討, 2019年電気学会電子・情報・システム部門大会(沖縄)
- 4) 永吉雅人, エルダトン・サイモン, 玉置久(2019.11) : マルチエージェント強化学習における周期的に負の値をとる学習率に関する基礎的検討, 計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会(千葉)
- 5) 永吉雅人, エルダトン・サイモン, 玉置久(2019.12) : マルチエージェント強化学習における周期的に1以上の値をとる割引率に関する基礎的検討, 電気学会システム・制御合同研究会(兵庫)
- 6) Masato Nagayoshi, Simon Elderton, Hisashi Tamaki(2020.1): A Promoting Method of Role Differentiation Using a Learning Rate that Has a Periodically Negative Value in Multi-agent Reinforcement Learning, International Conference on Artificial Life and Robotics 2020 (ICAROB' 20)(大分)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- The Japan Association of Language Teachers
- College and University Education SIG
- Pragmatics SIG
- 日本遺伝看護学会
- 日本比較文化学会
- 22q11.2 Society
- CAN (Conversation Analysis Network)ーKanto

【社会活動】

- NPO 法人親子の未来を支える会「2019 22q11.2 欠失症候群 長野 ZOO イベントの学習会」 (5月19日) 講師
- NPO 法人親子の未来を支える会 22q11.2 就学サポート アドバイザー

【学内教育活動】

学 部:英語コミュニケーションⅠA,英語コミュニケーションⅠB,英語コミュニケーションⅡA,英語コミュニケーションⅡB,英語コミュニケーションⅢ,英語コミュニケーションⅣ,基礎ゼミナール4,ふれあい実習,国際看護演習,ボランティア活動

博士前期課程:なし

博士後期課程:なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会副委員長,学生委員会委員,入試・広報委員会委員,紀要委員会委員
バレーボールサークル、吹奏楽団サークルサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 北村千章(研究代表者)

エルダトン サイモン、中込さと子、榎本淳子、桐生徹、稲葉雄二、石黒浩毅、早川統子、室亜衣 (2019～2021): 就学中の22q11.2欠失症候群の子どもの教育者と医療者の協働に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 境原三津夫(研究代表者)

エルダトン サイモン(2018～2020): 小児病院におけるファシリティドッグ導入促進のために—細菌学的視点からみた安全性—, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) ブラウン アイヴァン(研究代表者)

CARROLL DONALD、エルダトン サイモン(2018～2020): Developing authentic teaching materials and activities for English conversation, based on the analysis of an expanding corpus of English spoken as a lingua franca between Japanese and cultural others, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

境原 三津夫

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(6件)

- 1) 塩谷幸祐, 田口玲子, 安達寛人, 澤 恭弘, 境原三津夫(2019.10): 医療観察法入院処遇対象者の通院処遇への移行を促進するために—A 県の指定通院医療機関における調査から—, 日本セーフティプロモーション学会誌, 12(2),pp21 - 26(査読有)
- 2) Shin-ichi Sekiya, Honami Oota, Yukari Maruyama, Mitsuo Sakai, Yoko Takashima(2019.8): Congenital diaphragmatic eventration with absent left phrenic nerve in the fetal pig, Anatomical Science International, 95(1),pp143 - 152(査読有)
- 3) 境原三津夫, 小林宏至, 大庭重治(2020.3): 周産期医療の進歩と新生児の予後, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 26,pp46 - 49(査読有)
- 4) 大久保明子, 境原三津夫, 大庭重治(2020.3): がんに罹患した親をもつ児童生徒への支援, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 26,pp43 - 46(査読有)
- 5) 永吉雅人, Simon Elderton, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子, 境原三津夫, 大庭重治(2020.3): 化学物質過敏症—上越市における調査に基づいて—, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 26,pp39 - 42(査読有)
- 6) 笠原芳隆, 境原三津夫, 大庭重治(2020.3): 小・中学校におけるアレルギー疾患児への支援について, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 26,pp35 - 38(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 相澤達也, 石原千晶, 塩谷幸祐, 石田和子, 境原三津夫(2019.12): 精神的問題を抱える人に対する馬介在療法の効果に関する文献検討, 第11回新潟県看護ケア研究学会(新潟市)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 大庭重治, 境原三津夫, 渡辺弘之, 永吉 雅人, 大久保明子, 中島通子, 平澤則子, 高柳智子 他: 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための「地域連携コモンズ」形成の試み, 2018～2019 上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

- ・ 日本セーフティプロモーション学会 理事
- ・ 日本産科婦人科学会
- ・ 日本母性衛生学会
- ・ 日本補完代替医療学会
- ・ 日本温泉気候物理医学会
- ・ 日本フォレンジック看護学会
- ・ 新潟県看護ケア学会 査読委員

【社会活動】

- ・ 社会福祉法人みどり社会福祉協会・評議員

【学内教育活動】

学 部: 臨床病態学Ⅰ, 臨床病態学Ⅱ, 人間社会と倫理, 母性看護学Ⅱ, ふれあい実習, 助産学Ⅰ, 基礎ゼミナール
博士前期課程: 病態生理学, フィジカルアセスメント, がん看護学特論Ⅲ
博士後期課程: 母指看護学特論, 看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

図書委員会委員長,衛生委員会(衛生管理者)委員,情報ネットワーク特別委員会委員,外部評価特別委員会委員,
自己点検評価委員会委員
学校医,バドミントンサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 境原三津夫(研究代表者)

Elderton Simon(2018～2020)：小児病院におけるファシリテッド導入促進のために—細菌学的視点からみた安全性—, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 中澤紀代子(研究代表者)

境原三津夫 他(2017～2020)：助産師基礎教育から臨床への連動を意識した分娩後出血に関する教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

堀江 正男

1. 原著論文(3 件)

- 1) Hishida R, Horie M, Tsukano H, Tohmi M, Yoshitake K, Meguro R, Takebayashi H, Yanagawa Y, Shibuki K(2019.9): Feedback inhibition derived from the posterior parietal cortex regulates the neural properties of the mouse visual cortex, *European Journal of Neuroscience*, 50(6),pp2970 - 2987(査読有)
- 2) Onishi T, Watanabe T, Sasaki M, Kamiya Y, Horie M, Tsukano H, Hishida R, Kohno T, Takebayashi H, Baba H, Shibuki K(2019.7): Acute spatial spread of NO-mediated potentiation during hindpaw ischemia in mice., *Journal of Neurophysiology*, 597(13),pp3441 - 3455(査読有)
- 3) Tsukano H, Hou X, Horie M, Kitaura H, Nishio N, Hishida R, Takahashi K, Kakita A, Takebayashi H, Sugiyama S, Shibuki K(2019.12): Reciprocal connectivity between secondary auditory cortical field and amygdala in mice, *Scientific Reports*, 9,pp19610(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

- 1) Masao Horie, Nozumu Yoshioka, Satoshi Kusumi, Hiromi Sano, Ibrahim Hossain, Izumi Watanabe, Manabu Abe, Satomi Chiken, Atsushi Nambu, Kenji Sakimura, Masahiro Shibata, Hirohide Takebayashi(2019.7): Disruption of Dystonin in Schwann cells showed ataxia not dystonia, 日本神経科学学会(新潟市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：形態機能学 I,形態機能学 II,生物学,基礎ゼミナール3,ふれ合い実習

博士前期課程：疫学

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試広報委員会副委員長,倫理委員会委員,学生委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 堀江正男(研究代表者) (2017~2019) : Dystonin コンディショナルマウスを用いたジストニア症状の責任脳回路解明, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

1. 原著論文(3 件)

- 1) 中山登志子,舟島なをみ(2019.8): 「授業過程評価スケール-看護系大学院修士課程用-」の開発, 千葉看護学会誌, 25(1),pp67 - 75(査読有)
- 2) 佐藤菜,中山登志子,舟島なをみ(2020.3): 手術看護に携わる看護師の学習ニーズの解明, 看護教育学研究, 29(1),pp25 - 38(査読有)
- 3) 南本ゆみ,中山登志子,舟島なをみ(2020.3): 看護基礎教育機関を退学した学生の退学に至る経験, 看護教育学研究, 29(1),pp11 - 24(査読有)

2. その他論文(1 件)

- 1) 植田満美子,舟島なをみ,服部美香,伊勢根尚美,亀岡智美,金谷悦子,鹿島嘉佐音,宮芝智子,山下暢子,山澄直美(2020.3): 看護学教育における学術的執筆に関する海外文献の検討, 看護教育学研究, 29(1),pp1 - 10(査読有)

3. 著書(1 件)

- 1) 筒井真優美,舟島なをみ,他 35 名(2020.3): 看護理論家の業績と理論評価第 2 版, 第 19 章 アイモジン M. キング: 目標達成理論, 医学書院(東京)

4. 学会発表(14 件)

- 1) Etsuko Kanaya, Naomi Funashima(2019.7): Relationship Between Quality of Ethical Behavior and the Attributes of Nurse Researchers., STTI's 30th International Nursing Research Congress(Calgary, Canada)
- 2) Kasane Kashima, Naomi Funashima, Toshiko Nakayama(2019.7): Identifying Staff Nurses' Perceptions of Work Environments in Japan., STTI's 30th International Nursing Research Congress(Calgary, Canada)
- 3) 上國料美香,舟島なをみ(2019.8): 患者安全のための医療事故防止行動自己評価尺度—看護師長用—の開発—信頼性・妥当性の検証—, 日本看護教育学会第 29 回学術集会(前橋市)
- 4) 山下暢子,舟島なをみ,松田安弘,中山登志子(2019.8): 大学院修士課程に在籍し研究指導を受ける学生が知覚する教員の「良い研究指導」—論文完成を目ざす学生の理解—, 第 50 回日本看護学会—看護教育—学術集会(和歌山市)
- 5) 中山登志子,舟島なをみ,鹿島嘉佐音(2019.8): 新人看護師指導者のための医療安全行動自己評価尺度の開発, 日本看護研究学会第 45 回学術集会(大阪市)
- 6) 山下暢子,舟島なをみ,松田安弘,中山登志子(2019.8): 大学院修士課程の学生が知覚する教員の「良くない研究指導」の解明—学生と教員の健全な相互行為の展開に向けて—, 日本看護研究学会第 45 回学術集会(大阪市)
- 7) Tomomi Kameoka, Naomi Funashima, Mika Kamikokuryo(2019.11): Exploration of methodology for empirical test of nursing theory based on review of research process for empirical test of King's theory of goal attainment., King International Nursing Group ; Nursing Theories: Moving Forward through Collaboration, Application and Innovation, (Washington, D.C., U.S.A)
- 8) 山下暢子,舟島なをみ,松田安弘,中山登志子(2019.11): 大学院修士課程に在籍する学生が研究指導を評価する基準の解明, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)
- 9) 鹿島嘉佐音,中山登志子,舟島なをみ(2019.11): キャリア初期とキャリア中期にある看護師の職場の「働きやすさ」を決定づける基準の比較, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)
- 10) 永野光子,舟島なをみ(2019.12): 病院に勤務する看護師の倫理的行動の質に関する現状, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)
- 11) 上國料美香,舟島なをみ(2019.12): 病棟看護師が展開するベッドサイドでの患者教育に関する研究: 問題直面状況と関係する特性の解明, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)
- 12) 亀岡智美,舟島なをみ,上國料美香(2019.12): 看護師の研究成果活用力向上を支援する教育プログラムの開発—第一段階に位置づく「基盤知識修得研修」の有効性検証—, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)

13) 横山京子,舟島なをみ,中山登志子,山下暢子(2019.12) : 教育ニードアセスメントツール「小児看護に携わる看護師用」の開発, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)

14) 服部美香,舟島なをみ(2019.12) : スタッフ看護師の学習ニードの解明—2000 年と 2018 年の学習ニードの比較—, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- 日本看護教育学学会 相談役
- 聖路加看護学会 評議員
- 千葉看護学会 評議員
- 日本看護科学学会
- 日本看護研究学会
- 日本看護学教育学会
- 日本教育学会
- 文化看護学会
- Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing
- King International Nursing Group
- 日本看護教育学学会第 29 回学術集会 企画委員長相談役

【社会活動】

- 新潟県看護教員養成講習会運営委員会委員長
- 新潟県専門性の高い看護職員の育成検討会委員
- 新潟労災病院看護部教育研修「継続教育～考えよう！今、私たちは何を学ぶべきか」講師
- 新潟労災病院看護部教育研修「マネジメントリーダー研修—キャリア支援」講師
- テルモ株式会社「インジェクショントレーナーの役割と責任②」講師
- 教員養成講習会(新潟県看護協会)「看護論演習」講師
- 専任教員養成講習会(京都府看護協会)「看護教育論」講師
- 長野県看護協会研修「看護職の生涯学習支援～院内研修の企画・実施・評価」講師

【学内教育活動】

学 部 : 看護研究法

博士前期課程 : 看護学研究法, 看護理論, 看護教育学, 基礎看護学特論, 基礎看護学援助論 I, 基礎看護学援助論 II, 基礎看護学特別演習

博士後期課程 : 看護学研究法 I, 看護学教育論, 看護教育学特論

【学内委員会等の活動】

研究科委員会委員長, 研究推進委員会委員長, 入学委員会委員, 教学委員会委員, 自己点検評価特別委員会委員, 図書委員会委員

本学看護学実習指導者研修会講師, 看護教育学研究推進コース

【外部資金獲得】

1) 舟島なをみ(研究代表者)

中山登志子, 横山京子, 上國料美香, 鹿島嘉佐音 (2019～2023) : 医療事故防止のための「看護職包括型患者安全教育推進システム」の拡充と普及, 科学研究費助成事業(基盤研究 B)

2) 舟島なをみ(研究代表者)

中山登志子, 鹿島嘉佐音, 山下暢子, 服部美香, 小澤弘明, 白川優治(2018～2020) : 問題診断克服型 FD モデルの開発—教員の研究指導能力向上を目指して, 科学研究費助成事業 (挑戦的研究萌芽)

3) 亀岡智美(研究代表者)

舟島なをみ、山澄直美、中山登志子、上國料美香(2015～2019)：看護師の研究成果活用力向上を支援する問題克服型教育プログラム開発－EBNの推進，科学研究費助成事業(基盤研究B)

岩永 喜久子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(3件)

- 1) 岩永喜久子(2019.6) : チーム医療における看護専門外来の開発に関する研究, 地域ケアリング, 21,pp58 - 61(査読無)
- 2) 樺澤三奈子、岩永喜久子、酒井禎子、水口陽子(2020.3) : A 県内に UI ターンした看護職の実態調査 - UI ターン時の背景と生活・仕事のニーズ -, 新潟県立看護大学紀要, 9,pp1 - 8(査読有)
- 3) 酒井禎子、水口陽子、樺澤三奈子、岩永喜久子(2020.3) : 降雪地域を有する A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査 - UI ターン後の生活・仕事に関する満足度と支援ニーズ -, 新潟看護ケア研究学会誌, 6,pp9 - 17(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4件)

- 1) 竹原則子、岩永喜久子、岡村典子(2019.8) : A 県の医療施設に所属する看護職の社会人基礎力の実態, 第 23 回日本看護管理学会学術集会(新潟市)
- 2) 樺澤三奈子、岩永喜久子、酒井禎子、水口陽子(2019.12) : A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査 (第 1 報) , 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)
- 3) 猪瀬紗都子、岩永喜久子(2019.12) : 産科混合病棟の看護師長が捉える病棟運営上の課題, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)
- 4) 酒井禎子、水口陽子、樺澤三奈子、岩永喜久子(2019.12) : A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査 (第 2 報) -UI ターン後の生活・仕事の実態と支援ニーズ-, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 岩永喜久子、岡村典子、川島良子、山岸美奈子、谷内田潤子、上坂唯子 : A 大学 1 年次生と 2 年次生が基礎看護学実習で学んだ看護技術の自己評価, 令和元年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本看護技術学会
- ・ 日本看護管理学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本看護医療学会
- ・ 北関東医学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会
- ・ 日本看護技術学会第 18 回学術集会
- ・ 第 39 回日本看護科学学会学術集会

【社会活動】

- ・ 長野赤十字病院 看護と倫理研修会講師

【学内教育活動】

学 部 : 人間社会と倫理, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II, 国際看護論, 看護管理

博士前期課程 : 看護管理学特論, 看護管理学援助論 I, 看護管理学援助論 II, 看護管理学特別演習, 看護管理学特別

研究

博士後期課程：看護管理学特論

【学内委員会等の活動】

入学委員会委員長, 紀要委員会委員長, 実習委員会委員, 教学委員会委員, 大学院入試実施本部会委員, 委員

【外部資金獲得】

- 1) 岩永喜久子(研究代表者) (2016～2019)：チーム医療における高度実践看護師が担う看護専門外来システムの開発に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

岡村 典子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(4 件)
 - 1) 安達寛人, 中村幸恵, 永吉雅人, 岡村典子(2019.6): 医療観察法病棟における勤務計画表作成に関する実態調査, 日本精神保健看護学会 第 29 回学術集会・総会(名古屋市)
 - 2) 竹原則子, 岩永喜久子, 岡村典子(2019.8): A 県の医療施設に所属する看護職の社会人基礎力の実態, 第 23 回日本看護管理学会学術集会(新潟市)
 - 3) 岡村典子(2019.11): 国内における看護管理者と看護師との人間関係に関する研究の動向, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)
 - 4) Noriko Okamura(2020.2): Trends in research on communication education in basic nursing education in Japan, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science(Osaka)
5. その他の研究活動(1 件)
 - 1) 岩永喜久子, 岡村典子, 川島良子, 山岸美奈子, 谷内田潤子, 上坂唯子: A 大学 1 年次生と 2 年次生が基礎看護学実習で学んだ看護技術の自己評価, 令和元年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 新潟県専門性の高い看護職員の育成検討会, アシスティングメンバー
- ・ 独立行政法人労働者健康安全機構・新潟労災病院, 看護部教育委員会主催「看護理論研修」講師 (2019.10.07, 2019.12.09)
- ・ 新潟県立中央病院看護部主催, 「パートナーシップ・マインド研修」講師(2019.11.08)
- ・ 新潟県臨床検査技師会主催, ベッドサイド実践講習会「看護職から見た患者心理と家族とのコミュニケーション」講師(2019.12.14)
- ・ 静岡がんセンター看護部主催, 「看護過程研修」講師(2020.01.18)
- ・ 県内看護職の学生支援ニーズの把握

【学内教育活動】

学 部: 看護学概論, 看護援助論 I, 看護援助論 II, 基礎看護技術演習 I, 基礎看護学技術演習 II, 基礎看護学実習 I, 基礎看護学実習 II, 専門ゼミナール I, 専門ゼミナール II, 総合実習, ライフステージと看護
博士前期課程: 看護理論, 基礎看護学看護援助論 I, 基礎看護学看護援助論 II, 基礎看護学特別演習, 基礎看護学特別研究, 看護コンサルテーション論, フィジカルアセスメント, 看護研究法
博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会副委員長, 研究科委員会委員, 教学委員会委員, 倫理委員会委員, ハラスメント防止特別委員会委員, 看護研究交流センター看護職学習支援部門長
茶道サークル顧問

【外部資金獲得】

1) 岡村典子(研究代表者)

なし(2017～2020)：感情を的確にマネジメントする為のスキル習得に向けた看護管理者向けプログラムの構築，科学研究費助成事業(基盤研究C)

川島 良子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 川島良子, 馬場美幸(2020.3): 臨地実習において学生が承認されたと感じた内容とその思い, 新潟県立看護大学紀要, 9, pp9 - 13(査読有)
- 2) 山田正美, 河原畑尚美, 川島良子, 野口裕子, 大口洋子, 船山健二(2019.12): 新潟県立看護大学における防災に関する取り組み—学生の安否確認手段の整備と避難所開設支援体制の整備, 日本セーフティプロモーション学会誌, 12(2), pp27 - 32(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 岩永喜久子 岡村典子 川島良子 谷内田潤子 山岸美奈子 上坂唯子: A大学の1年次生と2年次生が基礎看護学実習で学んだ看護技術の自己評価, 令和元年度 新潟県立看護大学大学内共同研究助成研究

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 看護援助論Ⅱ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員, 国家試験・就職対策委員会委員, 看護交流センター 地域貢献部門委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

谷内田 潤子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

1) 岩永喜久子、岡村典子、川島良子、山岸美奈子、谷内田潤子、上坂唯子：A 大学1年次生と2年次生が基礎看護学実習で学んだ看護技術の自己評価，令和元年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：基礎看護技術演習Ⅰ,基礎看護学実習Ⅰ,看護援助論Ⅱ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員,学生委員会委員

【外部資金獲得】

なし

山岸 美奈子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(2件)
 - 1) 山岸美奈子, 小池潤, 阿部正子, 樺澤三奈子: 急性期看護に携わる臨床看護師が「患者に手で触れてわかること」の実態調査, 平成30年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
 - 2) 岩永喜久子, 岡村典子, 川島良子, 山岸美奈子, 谷内田潤子, 上坂唯子: A 大学1年次生と2年次生が基礎看護学実習で学んだ看護技術の自己評価, 令和元年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 看護援助論Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護技術演習Ⅱ, 基礎看護学実習Ⅱ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 看護研究交流センター先駆的学習支援部門員
学年担任, 合唱, ヘアドネーションサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

上坂 唯子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 岩永喜久子、岡村典子、川島良子、山岸美奈子、谷内田潤子、上坂唯子：A 大学1年次生と2年次生が基礎看護学実習で学んだ看護技術の自己評価，令和元年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：看護学概論,看護学援助論Ⅰ,看護学援助論Ⅱ,基礎看護学演習Ⅰ,基礎看護学演習Ⅱ,基礎看護学実習Ⅰ,基礎看護学実習Ⅱ,総合実習,専門ゼミナール

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

ハラスメント相談員

保健指導員

【外部資金獲得】

なし

石田 和子

1. 原著論文(1 件)

- 1) kiyoko kanda,keiko Fujimoto,Ruka Mochizyki,Kazuko ishida,Bumsuk Lee(2019.10): Development and validation of the comprehensive assessment scale for chemotherapy-induced peripheral neuropathy in survivors of cancer, BMC Cancer, 19 巻 904,pp2 - 11(査読有)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(13 件)

- 1) 渡邊千春, 石田和子 (2019.7): 看護学分野における「生活調整」の概念分析, 第 45 回日本看護研究学会(大阪)
- 2) 石原千晶, 石田和子, 細川舞, 京田亜由美, 他(2019.7): 末梢神経障害を伴うがん患者に対するチーム医療における多職種の認識と行動, 第 45 回日本看護研究学会(大阪)
- 3) 相澤達也, 村上千秋, 桶谷涼子, 南雲恵美, 金井紀江, 石田和子(2020.2): 外来化学療法中の壮年期男性がん患者の就労を継続する意味, 第 34 回日本がん看護学会(東京)
- 4) 山田希, 渡邊真理子, 石田和子(2020.2): 経口抗がん薬治療を受ける高齢者のコーピング, 第 34 回日本がん看護学会(東京)
- 5) 横山論, 石田和子(2020.2): 家に帰りたいと最後まで訴え亡くなった胃がん患者における看護師の倫理的・道徳的ジレンマの検討, 第 34 回日本がん看護学会(東京)
- 6) 東條律子, 真野登子, 佐藤純子, 横山論, 石田和子(2020.2): 認知症があり疼痛コントロールが困難ながん患者と家族への看護介入—IASM モデルを用いて—, 第 34 回日本がん看護学会(東京)
- 7) 佐藤充子, 田口美代志, 石田和子(2020.2): 在宅で生活しているがん患者の症状マネジメントに向けた訪問看護師の学習ニーズ, 第 34 回日本がん看護学会(東京)
- 8) 桶谷涼子, 相澤達也, 村上千秋, 石田和子(2020.2): がんと診断された母親が子どもに自分の病気を伝えるプロセス, 第 34 回日本がん看護学会(東京)
- 9) 杉山潤, 鴨井美幸, 斎藤琴子, 石田和子(2020.2): がん性イレウスにより入退院を繰り返す虫垂がん患者の在宅療養を支える看護支援, 第 34 回日本がん看護学会(東京)
- 10) 鴨井美幸, 杉山潤, 斎藤琴子, 石田和子(2020.2): 家族の希望を叶えようとした終末期がん患者の思い, 第 34 回日本がん看護学会(東京)
- 11) 斎藤琴子, 坂田智佳子, 鴨井美幸, 杉山潤, 石田和子(2020.2): 外来補助化学療法が継続困難になった統合失調症患者の看護 - 家族エンパワーメントモデルを活用した日常生活支援 -, 第 34 回日本がん看護学会(東京)
- 12) 相澤達也, 石原千晶, 塩谷幸祐, 石田和子, 境原三津夫(2019.10): 精神的問題を抱える人に対する馬介在療法の効果に関する文献検討, 新潟看護ケア研究学会第 11 回学会(新潟)
- 13) 坂田智佳子, 酒井禎子, 樺澤三奈子, 大久保明子, 石原千晶, 相澤達也, 石岡幸恵, 石田和子(2019.11): 上越地域における「リレー・フォー・ライフ・ジャパン(こいがた)」サテライト開催の取り組み, 第 3 回新潟がん看護研究会(新潟市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会
- ・ 日本死の臨床研究会関東甲信越地区 役員
- ・ 群馬緩和医療研究会
- ・ JCAP (上越がんプロジェクト)

【社会活動】

- ・ 本庄児玉看護専門学校（2年）看護研究の基礎
- ・ 高崎健康福祉大学 講義
- ・ 新潟県看護協会主催 緩和ケア研修会主催
- ・ 看護研究交流センター どこでもカレッジ公開講座 第1回看護研究のテーマをみつけよう
- ・ 看護研究交流センター どこでもカレッジ公開講座 第2回さあはじめよう看護研究～研究計画書の書き方まで～

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ,成人看護学演習,総合科目,専門ゼミナールⅠ・Ⅱ,ライフステージと看護,成人看護学実習,総合実習

博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ,がん看護学特論Ⅱ,がん看護学特論Ⅲ,看護学研究法,がん看護学特別演習Ⅰ,がん看護学特別演習Ⅱ,がん看護学特別演習Ⅲ,がん治療看護介入演習Ⅰ,がん治療看護介入演習Ⅱ,看護コンサルテーション論,病態生理学,臨床薬理学,高度がん看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

博士後期課程：成人・がん看護特論,看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員長,教学委員会委員長,入試・広報委員会委員
ELNEC-J 研修会主催

【外部資金獲得】

- 1) 石田和子(研究代表者)
石田順子 神田清子 石原千晶 相澤達也ほか(2017～2021)：がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 川田智美(研究代表者)
石田和子 佐藤充子(2019～2022)：がん化学療法患者の社会生活を支えるコントロール感覚獲得支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 3) 渡邊千春(研究代表者)
石田和子(2018～2021)：通院治療を継続する高齢独居がんサバイバーが持つ生活調整力の解明, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 4) 石田順子(研究代表者)
石田和子 神田清子(2016～2019)：がん患者と家族の家族機能を有効にするための患者・家族支援モデルの構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 5) 神田清子(研究代表者)
京田亜由美 望月留加 石田和子 石原千晶 他(2016～2019)：化学療法による末梢神経障害への包括的ケアマネジメント介入とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

高柳 智子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1 件)

- 1) 高柳智子(2019.11) : 回復期脳卒中患者に対するベッド・車椅子間移乗前後の布団操作自立に向けた看護支援の実態調査, 日本リハビリテーション看護学会誌, 9(1),pp51 - 57(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

- 1) 結城真、丸山和真、八木美穂、下村結花里、高柳智子 (2019.9) : 心臓リハビリテーション外来に通院していない患者の退院後の生活状況と要因, 日本赤十字医学会総会(広島)

5. その他の研究活動(1 件)

- 1) 大庭重治、境原三津夫、渡辺弘之、永吉 雅人、大久保明子、中島通子、平澤則子、高柳智子 他 : 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための「地域連携コモンズ」形成の試み, 2018～2019 上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

- ・ 日本リハビリテーション看護学会 査読委員

【社会活動】

- ・ 上越地域消防事務組合情報公開・個人情報保護制度審議会委員
- ・ 心臓リハビリテーション外来に通院していない患者の退院後の生活状況と要因
- ・ 高校出前講座「大学で看護を学ぶとは」(長岡大手高等学校)
- ・ 高校出前講座「大学で看護を学ぶとは」(関根学園高等学校)
- ・ 高校出前講座「脳の仕組みからみた脳卒中看護」2回シリーズ(新発田南高等学校)

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学Ⅰ, ライフステージと看護, 成人看護学Ⅱ, 成人看護学Ⅲ, 成人看護学Ⅳ, 看護倫理, 健康医療政策論, 成人看護学演習, 成人看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程 : 看護学研究法

博士後期課程 : 看護学研究法Ⅱ

【学内委員会等の活動】

FD 委員会委員長, 入学委員会委員, 教学委員会委員, カリキュラム検討特別委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 高柳智子(研究代表者)

なし(2019～2022) : 回復期脳卒中患者の病棟生活 21 時間の移乗を支える生活者目線の看護支援モデルの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

酒井 禎子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 酒井禎子, 水口陽子, 樺澤三奈子, 岩永喜久子(2020.3): 降雪地域を有する A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査—UI ターン後の生活・仕事に関する満足度と支援ニーズ—, 新潟看護ケア研究学会誌, 6,pp9 - 18(査読有)
- 2) 樺澤三奈子, 岩永喜久子, 酒井禎子, 水口陽子(2020.3): A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査—UI ターン時の背景と生活・仕事の支援ニーズ—, 新潟県立看護大学紀要, 9,pp1 - 8(査読有)

3. 著書(1件)

- 1) 佐藤(佐久間)りか, 別府宏暎, 和田恵美子, 佐藤幹代, 他 22 名(2019.12): 患者の語りと医療者教育—“映像と言葉”が伝える当事者の経験, がん患者の家族の体験を知る—大学院におけるがん看護学教育, 日本看護協会出版会(東京)

4. 学会発表(4件)

- 1) 高橋久美子, 酒井禎子(2019.10): 慢性腎臓病 (CKD) 看護における外来・病棟・透析室の部署間連携の促進要因—CKD 看護スローチャート作成過程を振り返って—, 第 50 回日本看護学会—看護管理—学術集会(名古屋)
- 2) 樺澤三奈子, 岩永喜久子, 酒井禎子, 水口陽子(2019.11): A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査 (第 1 報)—UI ターン時の背景と生活・仕事の支援ニーズ—, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(石川)
- 3) 酒井 禎子, 水口 陽子, 樺澤 三奈子, 岩永 喜久子(2019.11): A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査 (第 2 報)—UI ターン後の生活・仕事の実態と支援ニーズ—, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(石川)
- 4) 坂田智佳子, 酒井禎子, 樺澤三奈子, 大久保明子, 石原千晶, 相澤達也, 石岡幸恵, 石田和子(2019.11): 上越地域における「リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた」サテライト開催の取り組み, 第 3 回新潟がん看護研究会学術集会(新潟)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- 日本がん看護学会 代議員
- 日本緩和医療学会 代議員
- 日本死の臨床研究会 世話人
- 聖路加看護学会 評議員
- 日本看護科学学会
- 日本在宅ケア学会
- 日本老年看護学会
- 日本死の臨床研究会関東甲信越支部 役員
- 新潟看護ケア研究学会 学会誌編集委員
- 第 24 回聖路加看護学会学術大会 口演座長
- 第 43 回日本死の臨床研究会年次大会 示説座長
- 第 34 回日本がん看護学会学術集会 口演座長

【社会活動】

- 上越地域人生の最終段階における医療・ケア協議会委員・実行委員
- 魚沼基幹病院看護部特任教育コーディネーター
- 新潟県看護協会上越支部 2019 年度講演会「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関する

ガイドラインの概要と上越地域で実践していくための方策」講師

- ・ 第8回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会」講師
- ・ 長野市多職種連携推進講座 講師
- ・ 看護研究交流センター出前講座「看護職・介護職のための緩和ケア講座」講師
- ・ 金沢医科大学病院 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム講師
- ・ 令和元年度十日町福祉会法人研修「看取りケア研修会」講師
- ・ 第22回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者養成プログラム講師
- ・ 新潟県立中央病院緩和ケア研修会ファシリテーター
- ・ みょうこうケアフォーラム「家族支援について考える」講師
- ・ 2019年度第2回 ELNEC-J コアカリキュラム指導者フォローアップ研修会ファシリテーター
- ・ 令和元年度新潟県看護教員養成講習会「研究方法②」(演習)講師
- ・ 地域課題研究「新人看護職員における夜勤開始前の不安の調査」「新人看護師対象『急変対応シミュレーション』研修受講後の成果」

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅰ,成人看護学Ⅱ,成人看護学Ⅲ,成人看護学演習,成人看護学実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習,看護倫理

博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ,がん看護学特論Ⅱ,がん看護学特別演習Ⅰ,がん看護学特別演習Ⅲ,がん高度実践看護実習Ⅰ

博士後期課程：成人・がん看護学特論

【学内委員会等の活動】

倫理委員会委員長,学生委員会副委員長,国家試験対策・就職委員会委員,ハラスメント相談員

VSP、野球サークル顧問,国家試験対策セミナー講師

【外部資金獲得】

- 1) 酒井禎子(研究代表者) (2018～2020)：化学放射線療法を行う高齢がん患者の「食べて動ける力」を支える集学的ケアモデル構築, 科学研究費助成事業(若手研究)
- 2) 佐居由美(研究代表者)
山田雅子、中山和弘、酒井禎子、小高恵実、桃井雅子、相澤達也(2018～2022)：実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究B)
- 3) 笹原朋代(研究代表者)
酒井禎子、水野道代(2017～2020)：日本版エンド・オブ・ライフ・ケアの提供に必要な看護師のコンピテンシーに関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

山田 正実

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 山田正実、河原畑尚美、川島良子、野口裕子、大口洋子、船山健二(2019.10)：新潟県立看護大学における防災に関する取り組み—学生の安否確認手段の整備と避難所開設支援体制の整備—, 日本セーフティプロモーション学会誌, 12 (2) ,pp27 - 32(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本呼吸リハビリテーション学会
- ・ 日本災害看護学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅱ,成人看護学Ⅲ,成人看護学Ⅳ,成人看護学演習,成人看護学実習,看護倫理,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,災害看護活動論

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員長,入試・広報委員会副委員長,紀要委員会副委員長,看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

災害看護サークルサークル顧問,防災・減災教育,禁煙教育

【外部資金獲得】

なし

樺澤 三奈子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 樺澤三奈子,岩永喜久子,酒井禎子,水口陽子(2020.3): A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査—UI ターン時の背景と生活・仕事の支援ニーズ—, 新潟県立看護大学紀要, 9,pp1 - 8(査読有)
- 2) 酒井禎子, 水口陽子, 樺澤三奈子, 岩永喜久子(2020.3): 降雪地域を有する A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査—UI ターン後の生活・仕事に関する満足度と支援ニーズ—, 新潟看護ケア研究学会誌, 6,pp9 - 17(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4件)

- 1) 樺澤三奈子,岩永喜久子,酒井禎子,水口陽子(2019.11): A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査 (第1報)—UI ターン時の背景と生活・仕事の支援ニーズ—, 第39回日本看護科学学会学術集会(金沢市)
- 2) 酒井禎子,水口陽子,樺澤三奈子,岩永喜久子(2019.11): A 県内に UI ターンした看護職員の実態調査 (第2報)—UI ターン後の生活・仕事の実態と支援ニーズ—, 第39回日本看護科学学会学術集会(金沢市)
- 3) 坂田智佳子,酒井禎子,樺澤三奈子,大久保明子,石原千晶,相澤達也,石岡幸恵,石田和子(2019.11): 上越地域における「リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた」サテライト開催の取り組み, 第3回新潟がん看護研究会学術集会(新潟市)
- 4) 北條一華,樺澤三奈子,大石ふみ子(2020.2): 積極的治療を行わないという進行がん患者の意思決定とその影響要因, 第34回日本がん看護学会学術集会(東京都)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 山岸美奈子, 小池潤, 阿部正子, 樺澤三奈子: 急性期看護に携わる臨床看護師が手で「患者に触れてわかること」の実態調査, 2018年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本乳癌学会
- ・ 日本臨床腫瘍学会
- ・ せいらい看護学会 評議員
- ・ 新潟看護ケア研究学会 会員

【社会活動】

- ・ 令和元年度新潟県看護教員養成講習会講師
- ・ 「リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた」上越サテライト運営 (上越がんプロジェクト)

【学内教育活動】

学 部: 成人看護学Ⅱ,成人看護学Ⅲ,成人看護学Ⅳ,成人看護学演習,成人看護学実習(慢性・回復期看護実習),看護研究法,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,がん看護学特論Ⅰ,がん看護学特論Ⅱ,がん看護学特別演習Ⅱ,がん治療介入演習Ⅰ,がん治療介入演習Ⅱ,がん高度実践看護実習Ⅰ,がん高度実践看護実習Ⅱ,がん高度実践看護実習Ⅲ,がん高度実践看護実習Ⅳ,がん高度実践看護実習Ⅴ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

国際交流委員会委員長,教務委員会委員,入学委員会委員

卒業生による国際交流講演会コーディネーター,リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた(上越サテライト) 乳がんセルフチェック講師,がん関連倦怠感のセルフマネジメントに関する研修会講師

【外部資金獲得】

1) 樺澤三奈子(研究代表者)

森一恵(2017～2020): 補助化学療法を受ける肺がん患者の倦怠感セルフマネジメント促進プログラムの臨床評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 大石ふみ子(研究代表者)

白鳥さつき,葉山有香,南裕美,樺澤三奈子(2017～2019): 化学療法を受ける乳がん患者の味覚障害に対する客観的評価を用いた看護援助の検討, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) 林直子(研究代表者)

鈴木久美,森明子,中山直子,小林京子(2017～2021): AYA 世代にある小児がんサバイバーの移行期ケアを支える看護者育成プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究B)

小林 綾子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
 - 1) 松矢春奈、佐藤祐子、高橋久美子、小林綾子(2019.11)：慢性腎臓病保存期療養生活での患者の学び，新潟県看護協会看護学会(新潟県)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 2019年度新潟県看護協会看護学会

【社会活動】

- ・ 新潟県看護協会 学会委員
- ・ 新潟県看護協会 上越支部役員
- ・ 看護研究交流センター出前講座「働き盛りの方へ 少し生活を見直してみませんか 食事編」講師
- ・ 高校への出前講義 講師
- ・ 新潟県立中央病院 卒後2年目研修（ケーススタディー研修）の講師
- ・ 新潟県看護協会 主催研修会「プレゼンテーションスキルを高めよう」講師
- ・ 看護職学習支援部門 企画「文献検索の基本」講師
- ・ 論文投稿に向けた指導（新潟県立中央病院看護師より依頼）

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅲ,成人看護学Ⅳ,成人看護学演習,成人看護学実習,専門ゼミⅠ,専門ゼミⅡ,総合実習,看護研究法
博士前期課程：成人看護学援助論Ⅰ,成人看護学援助論Ⅱ,成人看護学特別演習
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員,紀要委員会委員長,ハラスメント防止特別委員会委員,看護研究交流センター看護職学習支援副部門長
学年担任,よさこいサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

石原 千晶

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(4件)
 - 1) 石原千晶, 石田和子, 細川舞, 京田亜由美, 望月留加, 藤本桂子, 神田清子(2019.8): 末梢神経障害を伴うがん患者に対するチーム医療における多職種認識と行動, 日本看護研究学会(大阪)
 - 2) 相澤達也, 石原千晶, 塩谷幸祐, 石田和子, 境原三津夫(2019.10): 精神的問題を抱える人に対する馬介在療法の効果に対する文献検討, 新潟看護ケア研究学会(新潟)
 - 3) 高橋未来, 千葉弥生, 岩村江里奈, 石原千晶(2019.10): 整形外科病棟における術後せん妄対策の変化―術前せん妄アセスメントツールの活用を通して―, 令和元年度地域課題研究発表会(新潟)
 - 4) 坂田智佳子, 酒井禎子, 榎澤三奈子, 大久保明子, 石原千晶, 相澤達也, 石岡幸恵, 石田和子(2019.11): 上越地域における「リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた」サテライト開催の取り組み, 第3回新潟がん看護研究会学術集会(新潟)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本がん看護学会
- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
- ・ 日本セーフティプロモーション学会
- ・ 群馬がん看護研究会
- ・ 新潟看護ケア研究学会
- ・ 新潟医学会
- ・ 新潟がん看護研究会第12回認定看護師・専門看護師懇話会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅲ,成人看護学Ⅳ,成人看護学演習,成人看護学実習,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,災害看護活動論

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員,FD 委員会委員,図書委員会委員

【外部資金獲得】

- 1) 神田清子(研究代表者)
京田亜由美 望月留加 石田和子 石原千晶 他(2016～2019): 化学療法による末梢神経障害への包括的ケアマネジメント介入とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究 B)

2) 石田和子(研究代表者)

石田順子、石岡幸恵、神田清子、石原千晶、相澤達也(2017～2021) : がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

石岡 幸恵

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 一般市民のヘルスリテラシーと死生観の関係-アドバンスケアプランニングを支援するために-(2019.9)：一般市民の終末期の意思決定に関連する価値観の傾向，第50回日本看護学会ヘルスプロモーション学術集会(長野)
 - 2) 坂田智佳子,酒井禎子,樺澤三奈子,大久保明子,石原千晶,相澤達也,石岡幸恵,石田和子(2019.11)：上越地域における「リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた」サテライト開催の取り組み，第3回新潟がん看護研究会学術集会(新潟市)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 日本看護協会上越支部看護職能委員
- ・ 第8回 ELEC-Jin 上越 企画実行委員、講師

【学内教育活動】

学 部：成人看護学Ⅳ,成人看護学演習,成人看護学実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習
博士前期課程：がん看護特別演習Ⅲ,がん高度実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員,入試・広報委員会委員,衛生委員会委員
ダンスサークル顧問

【外部資金獲得】

- 1) 石田和子(研究代表者)
石岡幸恵(2017～2021)：がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価，科学研究費助成事業(基盤研究C)

相澤 達也

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(4件)
 - 1) 相澤達也,石原千晶, 塩谷幸祐, 石田和子, 境原三津夫(2019.10): 精神的問題を抱える人に対する馬介在療法の効果に関する文献検討, 新潟看護ケア研究学会第11回学術集会(新潟)
 - 2) 坂田智佳子, 酒井禎子, 権澤三奈子, 大久保明子, 石原千晶, 相澤達也, 石岡幸恵, 石田和子(2019.11): 上越地域における「リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた」サテライト開催の取り組み, 第3回新潟がん看護研究会学術集会(新潟)
 - 3) 相澤達也, 村上千秋, 桶谷涼子, 南雲恵美, 金井紀江, 石田和子(2020.2): 外来化学療法中の壮年期男性がん患者の就労を継続する意味, 第34回日本がん看護学会学術集会(東京)
 - 4) 桶谷涼子, 相澤達也, 村上千秋, 石田和子(2020.2): がんと診断された母親が子どもに自分の病気を伝えるプロセス, 第34回日本がん看護学会学術集会(東京)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会

【社会活動】

- ・ 2019年度新潟県立中央病院 がん診療に携わる医療者に対する緩和ケア研修会 ファシリテーター
- ・ 第8回ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム in 上越 ファシリテーター (運営スタッフ)

【学内教育活動】

学 部: 成人看護学実習,成人看護学演習,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

- 1) 佐居由美(研究代表者)
山田雅子, 中山和弘, 酒井禎子, 小高恵実, 桃井雅子, 相澤達也(2018~2022): 実践知を基盤とした「安楽」をもたらす包括的コンピテンシー・プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究B)
- 2) 石田和子(研究代表者)
石田順子 神田清子 石原千晶 相澤達也ほか(2017~2021): がん化学療法に伴う妊孕性の低下におけるライフイベント支援モデルの開発とその評価, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

坂田 智佳子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(4件)
 - 1) 坂田智佳子、酒井禎子、樺澤三奈子、大久保明子、石原千晶、相澤達也、石岡幸恵、石田和子(2019.11) : 上越地域における「リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた」サテライト開催の取り組み, 第3回新潟がん看護研究会学術集会(新潟)
 - 2) 齋藤琴子、坂田智佳子、鴨井美雪、杉山潤、石田和子(2020.2) : 外来補助化学療法が継続困難になった統合失調症患者の看護-家族看護エンパワーメントモデルを活用した日常生活支援-, 第34回日本がん看護学術集会(東京)
 - 3) 杉山潤、鴨井美雪、坂田智佳子、齋藤琴子、石田和子(2020.2) : がん性イレウスにより入退院を繰り返す虫垂がん患者の在宅療養を支える看護支援, 第34回日本がん看護学術集会(東京)
 - 4) 鴨井美雪、杉山潤、齋藤琴子、坂田智佳子、石田和子(2020.2) : 最後まで家族の希望を叶えようとした患者の思い, 第34回日本がん看護学術集会(東京)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学学会 会員
- ・ 日本農村医学会 会員

【社会活動】

- ・ JCAP 上越がんプロジェクト
- ・ 新潟がん看護研究会

【学内教育活動】

学 部 : 成人看護学演習,成人看護学実習,総合実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

保健指導員

【外部資金獲得】

なし

大久保 明子

1. 原著論文(1 件)

- 1) 大久保明子(2019.10) : 小児がんの子どもを看取る看護師の葛藤, 仏教看護・ビハーラ学会, 14,pp66 - 80(査読有)

2. その他論文(1 件)

- 1) 大久保明子, 境原三津夫, 大庭重治(2020.3) : がん罹患した親をもつ児童生徒への支援, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 26,pp43 - 45(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

- 1) 坂田智佳子, 酒井禎子, 樺澤三奈子, 大久保明子, 石原千晶, 相澤達也, 石岡幸恵, 石田和子(2019.11) : 上越地域における「リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた」サテライト開催の取り組み, 第 3 回新潟がん看護研究会学術集会(新潟)

5. その他の研究活動(3 件)

- 1) 大久保明子, 室亜衣, 野口裕子 : 学童期・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の体験と支援ニーズに関する研究, 平成 30 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 船山健二, 小林宏至, 室亜衣, 小島美里, 大久保明子 : 学童期にある低出生体重児の母親が抱えるニーズに応える活動, 令和元年度新潟県立看護大学学内研究助成
- 3) 大庭重治, 大久保明子 (他研究分担者 19 名) : 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための「地域連携コモンズ」形成の試み, 上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

- ・ 仏教看護・ビハーラ学会 理事・編集委員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本小児看護学会 会員
- ・ 日本小児がん看護学会 会員
- ・ 日本家族看護学会 会員
- ・ 日本がん看護学会 会員
- ・ 日本小児保健協会 会員
- ・ 日本臨床死生学会 会員
- ・ 日本死の臨床研究会 会員
- ・ 新潟小児看護研究会 役員
- ・ 新潟小児看護研究会 第 15 回研究集会
- ・ 新潟小児看護研究会 第 21 回研究会

【社会活動】

- ・ 新潟県立上越特別支援学校 学校評議員
- ・ 高等教育コンソーシアムにいがた 看護系大学タスクフォース担当者
- ・ 平成 31 年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 講師
- ・ 看護研究交流センター出前講座「子どもの危険！事故予防と応急手当」糸魚川ひまわり保育園
- ・ 看護研究交流センター出前講座「自分のからだ・健康・いのちについて考えてみよう！」上越市立吉川中学校
- ・ 高校出前授業「小児看護師として働くこと」県立長岡向陵高校
- ・ 高校出前授業「小児看護師として働くこと」県立十日町高校

- ・ 上越教育大学研究プロジェクト第8回自主セミナー講師「がんに罹患した親をもつ 児童生徒への支援」
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第1回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第2回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第3回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第4回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第7回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第8回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第9回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第10回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第11回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第12回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第13回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第14回講師
- ・ 平成31年度新潟県看護教員養成講習会 臨地実習指導方法演習 第15回講師
- ・ わかばの会（子どもを亡くした遺族の会）
- ・ いのちを語る会（子どもを亡くした遺族の会）
- ・ 重心・医ケア児の地域生活を考える会

【学内教育活動】

学 部：ライフステージと看護,小児看護学Ⅰ,小児看護学Ⅱ,小児看護学演習,小児看護学実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習
 博士前期課程：小児看護学援助論Ⅱ,小児看護学特別演習
 博士後期課程：母子看護学特論

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員長,入学委員会副委員長,教務委員会委員,実習委員会委員,研究科委員会委員
 いちよう食堂スタッフサークル、100 km徒歩サークルサークル顧問

【外部資金獲得】

なし

野澤 祥子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 野澤祥子,住吉智子(2019.7) : 成人先天性心疾患患者の就労に関する質的研究 ―人生の長距離ランナーを目指して―, 日本小児看護学会誌, 28,pp173 - 181(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本小児看護学会
- ・ 日本小児保健協会
- ・ 日本成人先天性心疾患学会

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部 : 小児看護学演習,小児看護学実習,総合実習

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

【外部資金獲得】

- 1) 野澤祥子(研究代表者) (2018~2022) : 成人先天性心疾患患者のための相互補完型の教育を応用した就労支援モデルの開発, 科学研究費助成事業 (若手研究)

室 亜衣

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(3件)
 - 1) 北村千章, 室 亜衣, 倉石 佳織, 富岡 由紀子, 林 伸彦(2019.9): 高度な医療的ケアを要する児への学校での看護支援 脊髄性筋萎縮症I型の1事例を通して, 日本遺伝看護学会 第18回学術大会(東京)
 - 2) 北村 千章, 室 亜衣, Simon Elderton, 林 伸彦, 中込 さと子, 安河内 聡, 稲葉 雄二, 石黒 浩毅, 榎本 淳子, 桐生 徹(2019.9): 22q11.2 欠失症候群の子どものための就学ガイドの活用, 日本遺伝看護学会 第18回学術大会(東京)
 - 3) 北村 千章, 室 亜衣, 安河内 聡, 野口 昌彦, 稲葉 雄二(2019.6): 22q11.2 欠失症候群の子どもと家族が望む支援 就学ガイド作成に向けての取り組み, 第66回日本小児保健協会学術集会(東京)
5. その他の研究活動(2件)
 - 1) 大久保明子, 野口裕子, 室亜衣: 学童期・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の体験と支援ニーズに関する研究, 平成 30 (2018) 年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成
 - 2) 船山健二, 小林宏至, 室亜衣, 小島美里, 大久保明子: 学童期にある低出生体重児の母親が抱えるニーズに応える活動, 令和元年度新潟県立看護大学学内研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ NPO 法人 親子の未来を支える会

【学内教育活動】

学 部: 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域課題研究開発部門員

22q11.2 欠失症候群 家族交流会 コーディネーター

【外部資金獲得】

- 1) 北村千章(研究代表者)
エルダトン サイモン, 中込さと子, 榎本淳子, 桐生徹, 稲葉雄二, 石黒浩毅, 早川統子, 室亜衣 (2019~2021): 就学中の22q11.2 欠失症候群の子どもの教育者と医療者の協働に関する研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)なし

小林 宏至

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

1) 境原三津夫, 小林宏至, 大庭重治(2020.3): 周産期医療の進歩と新生児の予後, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 26, pp47 - 49(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

1) 船山健二, 小林宏至, 室亜衣, 小島美里: 学齢期にある超低出生体重児の母親が抱えるニーズに応える活動, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

・ 新潟小児看護研究会 会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 小児看護学演習, 小児看護学実習, 総合実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

中島 通子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 松枝杏奈(2019.10)：産褥期の精神状態とその背景の実態調査、～エジンバラ産後うつ病質問票の導入に向けて～、日本母性衛生学会(東京 幕張)
 - 2) 松枝杏奈(2019.11)：産褥期の精神状態とその背景の実態調査 ～エジンバラ産後うつ病質問票の導入に向けて～、新潟県厚生連看護部研究発表(長岡市)
5. その他の研究活動(2件)
 - 1) 上田恵 中島通子 石澤あさみ 他：レズビアンカップルにおける家族形成の意義に関する文献レビュー、令和元年度 新潟県立看護大学学内共同研究助成
 - 2) 研究代表者 大庭 重治 分担者 笠原芳隆 八島猛 境原三津夫 平澤則子 中島通子 高柳智子 大久保明子 永吉雅人 渡辺弘之 他：健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための「地域連携コモンズ」形成の試み、上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

- ・ 日本助産学会
- ・ 日本母性衛生学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本生殖看護学会
- ・ 日本不妊カウンセリング学会
- ・ 日本周産期・新生児医学会
- ・ MGTA 研究会

【社会活動】

- ・ 上越市 男女共同参画委員会
- ・ 出生直後から Family Centered Care の介入を受けた超早産児の母親が抱く思い
- ・ 産後の母親の精神状態とその背景の実態調査
～エジンバラ産後うつ病質問票を用いて～ 上越総合病院にて左記質問票の導入を試みることに際しパイロットスタディの結果と導入への課題を検討した。現在対象者への質問票配布と地域に繋ぐ活動へと発展している。

【学内教育活動】

学 部：母性看護学Ⅰ,母性看護学Ⅱ,母性看護学演習,母性看護学実習 90 時間×6 グループ,妊娠期助産診断技術学,分娩期助産診断技術学,産褥期助産診断技術学,人間社会と倫理,ライフステージと看護,専門ゼミⅠ,専門ゼミⅡ,総合実習,助産技術学演習,基礎 助産学実習
博士前期課程：看護研究,母性看護学特論,母性看護学援助論Ⅰ,母性看護学援助論Ⅱ
博士後期課程：母子看護学特論

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員長,教学委員会委員,看護交流センター看護職学習支援委員,成績疑義ワーキング委員長,新カリキュラム特別委員会委員,看護研究交流センター看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】
なし

西田 絵美

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1 件)

1) 西田絵美(2019.6): 看護基礎教育における〈ケアリングの教育〉カリキュラムへの提言, 日本看護倫理学会 (大阪府大阪市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護学教育学会
- ・ 日本看護倫理学会
- ・ 日本医学哲学倫理学会
- ・ 日本母性看護学会
- ・ 日本母性衛生学会

【社会活動】

- ・ 看護研究交流センター出前講座「看護職に必要なケアリングの基礎知識」講師

【学内教育活動】

学 部：母性看護学Ⅰ,母性看護学Ⅱ,母性看護学演習,母性看護学実習,総合実習,地域母子保健,産褥・新生児期
助産診断・技術学,助産学概論,ウイメンズヘルス,助産学実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：母性看護学特論,母性看護学援助論Ⅰ

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

入試・広報委員会委員,国際交流委員会委員,教務委員会委員,助産学履修者選考委員会委員,看護研究交流センター地域課題研究開発部門長

【外部資金獲得】

なし

阿部 正子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 山岸美奈子, 阿部正子, 樺澤三奈子, 小池潤: 急性期看護に携わる臨床看護師が手で「患者に触れてわかること」の実態調査, 2018年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本助産学会
- ・ 日本生殖看護学会

【社会活動】

- ・ 新潟県立高田北城高等学校 社会人講話『Choice 人生の岐路に立った時, 私は何をどのように選んできたか?』講師
- ・ M-GTA 研究会 (東京) 世話人
- ・ 中部 M-GTA 研究会 会長

【学内教育活動】

学 部: 母性看護学Ⅰ, 母性看護学Ⅱ, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 妊娠助産診断技術学, 助産学演習

博士前期課程: 母性看護学特論, 母性看護学演習Ⅰ, 母性看護学演習Ⅱ

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

研究推進委員会副委員長, FD 委員会委員, 実習委員会委員, 国試・就職支援委員会委員
FD 研修会『チームとして教育力を高める』, 研究推進委員会『RPC カフェ』

【外部資金獲得】

- 1) 伊藤祐紀子(研究代表者)

阿部正子, 那須淳子(2018~2020): 「看護する身体」を育成する教育プログラムの開発~現状調査と学生の学びの質的研究~, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

- 2) 阿部正子(研究代表者)

宮田久枝(2019~2021): 不妊治療の終結をめぐる夫婦の意思決定支援に有用な看護アセスメントガイドの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

天谷 まり子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本助産学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本母性看護学会 会員
- ・ 日本母性衛生学会 会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

【外部資金獲得】

- 1) 天谷まり子(研究代表者) (2017～2020)：妊娠糖尿病（GDM）妊婦における食事療法の適応状態に関する評価尺度の開発，科学研究費助成事業（若手研究）

杉山 泰子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(2件)

- 1) 杉山泰子, 大津廣子, 長尾理恵, 武笠佑紀, 三井弘子, 井上佳代, 鈴木隆弘(2020.1): 卒業前の看護実践能力の達成度と今後の課題, 鈴鹿医療科学大学紀要, 26号, pp83 - 92(査読有)
- 2) 宍戸圭介, 良香織, 佐保美奈子, 杉山泰子(2019.6): 性教育、何をどこまで教えるべきか?, 人権教育研究, 19巻, pp1 - 15(査読無)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 津市立白山中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 亀山市神辺小学校 教育懇談会講師
- ・ 津市立美杉中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 津市立久居東中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 津市立西郊中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 津市立西橋内中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 津市立南郊中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 津市立一志中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 津市立美杉橋北中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ 津市立橋南中学校 思春期ライフプラン教育事業講師
- ・ みえ母乳の会 実行委員
- ・ 公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター 支援員
- ・ 性暴力救援センター日赤なごやなごみ 性暴力被害者支援看護師

【学内教育活動】

学 部：母性看護学演習, ウィメンズヘルス, 地域母子保健, 妊娠期助産診断技術学, 分娩期助産診断技術学, 産褥
・ 新生児期助産診断技術学, 助産技術学演習, 助産学実習, 総合実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

図書委員会委員, 実習委員会委員

学年担任

【外部資金獲得】

なし

上田 恵

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(1件)
 - 1) 上田恵: レズビアンカップルにおける家族形成に関する研究動向, 2018年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部：助産学実習, 総合実習, 母性看護学実習, 母性看護学演習, 助産技術学演習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター看護職学習支援部門員

【外部資金獲得】

なし

小野 幸子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(なし)

3. 著書(1件)

1) 大橋謙策、秋葉都子編：淡路由紀子、松村実、斎藤裕三、金子智代美、澤田キヌ子、田中智子、三木康史、梅津鋼、山野良夫、亀井道信、跡部尚子、山崎和彦(2019.9)：ユニットケアの哲学と実践、第2章：施設訪問レポート「入居者の方言も生活の一部として捉え、大切にするユニットケア」、第5章「高齢シユアの特性を踏まえた根拠のあるケア技術の開発とその成果」、日本医療企画(東京都)

4. 学会発表(3件)

- 1) 中込沙織、小野幸子(2019.6)：ユニット型介護老人保健施設における看取り上の課題、日本老年看護学会(宮城県)
- 2) Naomi Yamasaki, Yumiko Momose, Nobuko Amaki, Ayumi Fujino, Keiko Tsuboi, Sachiko Ono, Masayo Shimaoka, Hisashi Uenaka (2019.10)： Development of set of end-of-life care assessment indicators for group home nurses in JAPAN, IAGG(台北)
- 3) 島田玲児、原等子、河原畑尚美、小野幸子(2019.12)：主介護者が推定した認知症高齢者の意思の判断根拠、日本看護科学学会(金沢)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本老年看護学会
- ・ 日本老年看護学会
- ・ 北日本看護学学会
- ・ 千葉看護学会
- ・ 日本老年看護学会第24回学術集会教育講演
- ・ 宮城看護学会第13回学術集会特別講演

【社会活動】

- ・ 上越市情報公開・個人情報保護制度等審議会委員
- ・ 新潟県厚生農業協同組合連合会上越総合病院看護師の特定医行為研修管理委員
- ・ 日本ユニットケア推進センター「特別養護老人ホーム個別ケアの手法開発に関する調査研究」研究委員会委員
- ・ つまり地域多職種連携セミナー企画・運営委員
- ・ 日本ユニットケア推進センター主催の「特別養護老人ホーム看護職のためのユニットケア」の【基礎編】と【専門編】の研修講師各々1回(計2回)
- ・ 看護研究交流センター看護職学支援事業「特別養護老人ホームにおける良い看取りの実現に向けて」の研修会講師
- ・ 上越市と本学連携事業「医療・健康福祉市民フォーラム：支え合う共生のまちづくり～できること!皆で考えよう!」のパネルディスカッションのコーディネーター
- ・ 県内看護職の学習支援の内容・方法の要望に関する調査

【学内教育活動】

学 部：人間社会と倫理,健康医療政策論,老年看護学Ⅰ,老年看護学Ⅱ,老年看護学演習,専門ゼミナールⅡ,総合

実習

博士前期課程：看護学研究法,老年看護学特論Ⅰ,老年看護学特論Ⅱ,老年看護学特論Ⅲ,老年高度看護援助論Ⅰ,老年高度看護援助論Ⅱ,老年看護学特別演習Ⅰ,老年看護学特別演習Ⅱ,老年看護学特別演習Ⅲ,老年高度実践看護学実習Ⅰ,老年高度実践看護学実習Ⅱ,老年高度実践看護学実習Ⅲ,看護学領域別特別研究,専門分野別課題研究

博士後期課程：老年看護学特論,看護学特別研究（2年次生60時間、1年次生30時間）

【学内委員会等の活動】

看護研究交流センター委員長,FD委員会委員,教学委員会委員,入学委員会委員,自己点検評価委員会委員,看護研究交流センター特別研究部門長

大学院非常勤講師の公開授業科目の調整

【外部資金獲得】

1) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美、原等子、大倉由貴、大口洋子、東條紀子、坪井桂子、山崎尚美(2018～2020)：看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築，科学研究費助成事業(基盤研究C)

2) 河原畑尚美(研究代表者)

小野幸子(2018～2020)：看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの構築，科学研究費助成事業(基盤研究C)

3) 坪井桂子(研究代表者)

秋定真有、上瀬芙美代、小野幸子、山崎尚美(2018～2020)：高齢者ケア施設の看護職に向けた新任期看護師の教育支援，科学研究費助成事業(基盤研究C)

原 等子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(7 件)
 - 1) 大倉由貴, 原等子, 廣瀬真由美, 佐藤幸浩(2019.5) : POTT プロジェクト in 北陸ブロック活動報告, 第 2 回 POTT 全国大会(京都)
 - 2) 原等子, 荊山和生, 江口恭子, 鎌田晴之, 長谷川和世, 小川敬之(2019.5) : 認知症の人の自動車運転にかかわる家族の対応の実態-運転免許返納状況とその工夫, 第 20 回日本認知症ケア学会(京都)
 - 3) 原等子, 荊山和生, 江口恭子, 鎌田晴之, 長谷川和世, 小川敬之(2019.6) : 認知症の人の行方不明に対する早期発見, 再発予防のための取り組み-介護者への質問紙調査-, 日本老年社会学会第 61 回大会(仙台市)
 - 4) 江口恭子, 原等子, 荊山幸雄, 鎌田晴之, 長谷川和世, 小川敬之(2019.6) : 認知症の人の運転免許証返納の実態~家族介護者への質問紙調査から~, 日本老年看護学会第 24 回学術集会(仙台市)
 - 5) 原等子, 大倉由貴, 廣瀬真由美, 佐藤幸浩, 迫田綾子, 清水徳子, 竹内真奈美, 柳沢美直代(2019.9) : ポジショニングで食べる喜びを伝える POTT プログラムの伝承・定着ロジックツリーの検証, 第 25 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会(新潟市)
 - 6) 荊山和生, 原等子, 江口恭子, 鎌田晴之, 長谷川和世, 小川敬之(2019.11) : 認知症の人の自動車運転免許証返納の実態~認知症の人と家族の会の質問紙調査から~, 日本精神障害者リハビリテーション学会第 27 回大阪大会(大阪)
 - 7) 島田玲児, 原等子, 河原畑尚美, 小野幸子(2019.12), 主介護者が推定した認知症高齢者の意思の判断根拠, 第 39 回日本看護科学学会学術集会(金沢市)
5. その他の研究活動(1 件)
 - 1) 原等子, 大倉由貴, 大口洋子, 田中美紀, 安楽大 : 軽度認知症の本人と家族の診断後の生活再構築のための本人同士のピアサポートのあり方, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本老年看護学会
- ・ 日本認知症ケア学会
- ・ 日本老年社会学会
- ・ 日本看護学会在宅看護
- ・ 新潟口腔ケア研究会
- ・ 第 20 回日本認知症ケア学会ポスター発表座長
- ・ 日本老年看護学会第 24 回学術集会ポスター発表座長
- ・ 第 19 回日本訪問歯科医学会シンポジウム訪問歯科における医科歯科連携シンポジスト (11/10) 東京
- ・ 2019 年度新潟県看護協会看護学会看護フォーラム座長 (11/29) 新潟市

【社会活動】

- ・ 国土交通省移動円滑化等評価会議委員
- ・ [研修講師] 平成 31 年度新潟県看護協会上越地区支部 看護師職能研修企画②「精神的負担が軽くなる認知症ケアの考え方のヒント」(新潟労災病院, 9/7, 80 分)
- ・ [研修講師] 新潟県老人福祉施設協会第 24 回研究大会第二分科会「中等度ケアの実践 中等度の方々を支

える認知症ケア、見守りなど専門的ケアの実践」講演「認知症を通じて暮らしの支援を考える（糸魚川市、9/11, 90分）

- ・〔研修講師〕阿賀北認知症地域連携研究会「ユマニチュードを活用する-認知症の人と心が通うコミュニケーションについて考える-」（新発田市, 9/17, 90分）
- ・〔研修講師〕令和元年度十日町福祉会法人研修「認知症の理解と援助方法 認知症の人も私も穏やかに生活してゆくことはできますか」（十日町市, 10/10）
- ・【出前講座】田辺建設株式会社, 認知症のこと知りたい（入門編）（6/18, 90分）
- ・【出前講座】金葉会（教員退職者の会）, 認知症のこと知りたい（入門編）（7/9, 90分）
- ・【出前講座】国府町内会, 認知症への対応を知りたい（初級編）（8/2, 90分）
- ・【出前講座】東城二長寿会, 認知症のこと知りたい（入門編）（8/6, 90分）
- ・【出前講座】知命堂病院, 認知症への対応を知りたい（初級編）（8/28, 70分）
- ・【出前講座】五智第二鶴寿会, 認知症のこと知りたい（入門編）（9/9, 120分）
- ・【出前講座】知命堂病院, 認知症への対応を知りたい（中級編）（9/25, 70分）
- ・【出前講座】幸町幸寿会, 認知症のこと知りたい（入門編）（10/8, 60分）
- ・【出前講座】板倉社協, 認知症への対応を知りたい（初級編）（2/17, 60分）
- ・【認知症サポーター養成講座】コーラスグループ（高田小町, 8/28）
- ・【認知症サポーター養成講座】コーラスグループ（ワークパル上越, 8/28）
- ・認知症の人と家族の思いと介護状況および市民の認知症に関する意識の実態調査報告書（令和元年度老人保健事業推進等補助金老人保健健康増進等事業）
- ・公益社団法人認知症の人と家族の会本部理事（業務執行理事）
- ・上越オレンジサポーター世話人

【学内教育活動】

学 部：ライフステージと看護, 老年看護学Ⅰ, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：フィジカルアセスメント, 老年看護学特論Ⅰ, 老年看護学特論Ⅱ, 老年高度実践看護援助論Ⅰ, 老年看護特別演習Ⅰ, 老年看護特別演習Ⅱ, 老年看護特別演習Ⅲ, 専門分野別課題研究

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 学生委員会委員, 看護研究交流センター先駆的学習支援部門員
認知症オレンジサークル顧問

【外部資金獲得】

1) 武地一(研究代表者)

原等子, 苅山和生, 江口恭子, 小川敬之(2019～2019)：認知症の人と家族の思いと介護状況および市民の認知症に関する意識の実態調査, 令和元年度老人保健事業推進等補助金老人保健健康増進等事業

2) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美, 原等子, 大倉由貴, 大口洋子, 東條紀子, 坪井桂子, 山崎尚美(2018～2020)：看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

河原畑 尚美

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 山田正実 河原畑尚美 川島良子 野口裕子 大口洋子 船山健二(2019.9):新潟県立看護大学における防災に関する取り組み—学生の安否確認手段の整備と避難所開設支援体制の整備—, 日本セーフティプロモーション学会誌, 12 (2) ,pp27 - 32(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 島田玲児 原等子 河原畑尚美 小野幸子(2019.12):主介護者が推定した認知症高齢者の意思の判断根拠, 第39回日本看護科学学会学術集会(石川県金沢市)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会 会員
- ・ 日本看護学教育学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本死の臨床研究会 会員
- ・ 日本災害看護学会 会員
- ・ 北日本看護学会 会員
- ・ 日本感染看護学会 会員
- ・ 日本循環器看護学会 会員
- ・ 日本認知症ケア学会 会員
- ・ 大学病院の緩和ケアを考える会 会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会 会員

【社会活動】

- ・ 上越災害医療コーディネーターチーム員(上越地域振興局健康福祉環境部管轄)
- ・ 上越市地域包括支援センター運営協議会委員
- ・ 上越市高齢者見守り支援ネットワーク会議委員
- ・ 新潟西高校出前講義「大学で看護学を学ぶということ」講師
- ・ 長野吉田高校出前講義講師「大学で看護学を学ぶということ」講師
- ・ つまり地域多職種協働セミナー, 企画委員、ファシリテーター
- ・ 令和元年度 上越地域看護研究発表会 実行委員

【学内教育活動】

学 部：老年看護学Ⅰ,老年看護学Ⅱ,老年看護学演習,老年看護学実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習,災害看護活動論,看護研究法

博士前期課程:老年看護学特論Ⅰ,老年看護学特論Ⅱ,老年高度看護援助論Ⅰ,老年高度看護援助論Ⅱ,老年看護学特別演習Ⅰ,老年看護学特別演習Ⅲ,専門分野別課題研究(老年CNS)

博士後期課程:なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会副委員長,実習委員会副委員長,教務委員会委員,看護研究交流センター地域課題研

究開発部門員
学年担任

【外部資金獲得】

1) 河原畑尚美(研究代表者)

小野幸子 (2018～2020) : 看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの開発, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

2) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美 原等子 大口洋子 東條紀子 大倉由貴 坪井桂子 山崎尚美 (2018～2020) : 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究 C)

大口 洋子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 山田正美、河原畑尚美、川島良子、野口裕子、大口洋子、船山健二(2019.12) : 新潟県立看護大学における防災に関する取り組み—学生の安否確認手段の整備と避難所開設支援体制の整備, 日本セーフティプロモーション学会誌, 12, pp27 - 32(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(なし)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 大口洋子、後田譲、田口玲子、長谷川雅美 : ストレングスモデルを活用した看護実践に関する研究, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 原 等子、大倉由貴、大口洋子 : 軽度認知症の本人と家族の診断後の生活再構築のための本人同士のピアサポートの在り方, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会
- ・ 日本ルーラルナーシング学会
- ・ 日本認知症ケア学会
- ・ 日本災害看護学会
- ・ 看護実践学会

【社会活動】

- ・ 新潟県中魚沼郡津南町立病院運営審議会委員
- ・ CAP・じょうえつ
- ・ 認知症ケア専門士会
- ・ 認知症の本人と家族の会
- ・ 上越市内(大町小、南川小、南本町小)小学生への認知症サポーター養成講座
- ・ ひなたぼっこの会

【学内教育活動】

学 部 : 老年看護学Ⅱ, 精神看護学Ⅱ, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

ハラスメント防止特別委員会委員, 災害時看護支援特別委員会委員
学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美、原等子、東條紀子、大倉由貴、大口洋子(2018～2020) : 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

東條 紀子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(2件)
 - 1) 川野英子(2019.7) : 訪問看護ステーション実習時における終末期ケアに関する指導内容の現状, 第24回日本在宅ケア学会 学術集会(宮城県仙台市)
 - 2) 川野英子(2019.8) : 学生が同行訪問する在宅終末期療養者の選定時における訪問看護師の留意点, 第23回日本看護管理学会(新潟市)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護学教育学会 (会員)
- ・ 日本老年看護学会 (会員)
- ・ 日本在宅ケア学会 (会員)
- ・ 日本難病看護学会 (会員)
- ・ 日本看護研究学会 (会員)

【社会活動】

- ・ POTT プロジェクト研修会 介護老人保健施設くびきの (2019.7月) 研修スタッフ
- ・ POTT プロジェクト研修会 介護老人保健施設くびきの (2019.10月) 研修スタッフ
- ・ POTT プロジェクト研修会 北陸信越ブロック 長野松代病院 (2019.10月) 研修スタッフ
- ・ 福祉・介護・健康フェア 2019in 上越 新潟県立看護大学ブース出展企画/運営リーダー (学生委員会)
- ・ 認知症シンポジウムの開催 (2020. 2月) 上越高齢者ケア研究会 企画・実行委員

【学内教育活動】

学 部 : 総合実習, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 老年看護学Ⅱ, 老年看護学Ⅰ, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程 : なし

博士後期課程 : なし

【学内委員会等の活動】

入試広報委員会委員, 学生委員会委員

学年担任

【外部資金獲得】

- 1) 小野幸子(研究代表者)

河原畑尚美, 原等子, 大口洋子, 大倉由貴, 東條紀子(2018~2020) : 看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

長谷川 雅美

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(1件)
 - 1) 小瀬古伸幸,進あすか,田中浩二,長谷川雅美(2019.6): WRAP (Wellness Recovery Action Plan) の視点を取り入れた看護計画に基づく精神科訪問看護の効果, 日本精神保健看護学会(名古屋)
5. その他の研究活動(2件)
 - 1) 長谷川雅美,田口玲子,後田穰,安達寛人,船山健二: 病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相, 令和元年度新潟県立看護大学内共同研究助成
 - 2) 大口洋子, 後田譲, 田口玲子, 長谷川雅美: ストレングスモデルを活用した看護実践に関する研究, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本精神保健看護学会評議員
- ・ 日本うつ病学会多職種連携委員
- ・ 日本うつ病学会双極性障害委員
- ・ 日本うつ病学会倫理委員
- ・ 日本うつ病学会学会賞選考委員
- ・ 日本周産期メンタルヘルス学会顧問
- ・ 日本看護研究学会代議員
- ・ 看護実践学会査読委員
- ・ 第57回日本医療・病院管理学会学術集会/座長

【社会活動】

- ・ 日本看護系大学協議会会員 (本学代表)
- ・ 上越市ご当地ナンバー導入検討会議副会長
- ・ 新潟県精神保健福祉協会上越支部理事
- ・ 上越市自殺予防対策連携会議委員
- ・ 新潟市市民大学講座コーディネーター、講師
- ・ 石川県看護協会実習指導者講習会講師
- ・ 石川県助産師職能研修会講師
- ・ 魚沼市自殺予防対策研修会講師
- ・ 南魚沼市自殺予防対策研修会講師
- ・ 津南町自殺予防対策研修会講師
- ・ 上越市自殺予防対策研修会講師
- ・ 上越市発達障害研修会講師
- ・ 新潟県助産師会研修講師
- ・ 上越保健師職能研修講師
- ・ 上越助産師職能研修講師
- ・ いきいきサロン講師 (高齢者のうつ予防と家族の対応)
- ・ 日総研出版「プロセスレコード」研修会講師 (東京、大阪、名古屋、福岡、岡山)
- ・ 新潟日報「うつを気軽に語る場を」2019.2.14

- ・ 上越よみうり「上越」ナンバーデザイン表彰 2019.1.24
- ・ 朝日新聞「育児の悩み周囲に話す」 2019.9.7
- ・ うつ当事者グループ主宰

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ,国際看護活動論

博士前期課程：精神看護学特論,精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱ,精神看護学特別演習,看護学領域別特別研究,看護学研究法

博士後期課程：精神看護学特論,看護学特別研究

【学内委員会等の活動】

自己点検・評価特別委員会委員長,ハラスメント防止特別委員会委員長,外部評価特別委員会委員,情報ネットワーク特別委員会委員,教学委員会委員

新潟市民公開講座コーディネーター,いきいきサロン講師,海外学生研修引率コーディネーター

【外部資金獲得】

なし

田口 玲子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(1件)
 - 1) 塩谷幸祐, 田口玲子, 安達寛人, 澤 恭弘, 境原三津夫(2019.10): 医療観察法入院処遇対象者の通院処遇への移行を促進するために—A 県の指定通院医療機関における調査から—, 日本セーフティプロモーション学会誌, 12(2), pp21 - 26(査読有)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(2件)
 - 1) 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰, 安達寛人, 舩山健二: 病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
 - 2) 大口洋子, 後田穰, 田口玲子, 長谷川雅美: ストレングスモデルを活用した看護実践に関する研究, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本看護研究学会
- ・ 日本精神保健看護学会
- ・ 日本カウンセリング学会
- ・ 日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会
- ・ 日本心理臨床学会
- ・ 日本看護歴史学会
- ・ 新潟看護ケア研究学会 評議員

【社会活動】

- ・ 新潟労災病院倫理委員会令和元年度委員
- ・ 新潟労災病院医学系研究利益相反管理委員会令和元年度委員
- ・ 上越市自立支援協議会令和元年度委員
- ・ さいがた医療センター看護研究指導「臨床看護研究について（講演）」講師
- ・ さいがた医療センター看護研究指導「第1回 グループ指導」講師
- ・ さいがた医療センター看護研究指導「第2回 グループ指導」講師
- ・ さいがた医療センター看護研究指導「第3回 グループ指導」講師
- ・ さいがた医療センター看護研究指導「第4回 グループ指導」講師
- ・ さいがた医療センター看護研究指導「第5回 グループ指導」講師
- ・ さいがた医療センター看護研究指導「第6回 グループ指導」講師
- ・ さいがた医療センター看護研究指導「看護研究発表会」総評
- ・ にいがた市民大学第25期（2019年度）講師
- ・ 上越教育大学・新潟県立看護大学2019年度連携公開講座講師
- ・ うつ病当事者の会「ひなたぼっこ」
- ・ 冊子「看護職のためのメンタルヘルスケア—ホリスティックケアの視点から—」の編集と発行

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅰ,精神看護学Ⅱ,精神看護学演習,精神看護学実習,総合実習,看護倫理,専門ゼミナールⅠ,

専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：看護倫理特論,看護コンサルテーション論,がん看護学特別演習Ⅰ

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員長,教務委員会委員,看護研究交流センター先駆的学習支援部門員

【外部資金獲得】

なし

後田 穰

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(2件)
 - 1) 大口洋子、後田穰、田口玲子、長谷川雅美：ストレングスモデルを活用した看護実践に関する研究，令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
 - 2) 長谷川雅美、田口玲子、後田 穰、安達寛人、船山健二：病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相，令和元年度採択新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本集団療法学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本看護管理学会 会員
- ・ 日本精神医学史学会 会員
- ・ 日本看護歴史学会 会員
- ・ 新潟看護ケア研究学会 会員

【社会活動】

- ・ 社会福祉法人てりてりかんぱにい後援会はあぶ
- ・ うつ病者の会ひなたぼっこ
- ・ 新潟県立精神医療センター看護部看護研究指導

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ,精神看護学演習,精神看護学実習,総合実習,精神看護学ゼミナールⅠ,精神看護学ゼミナールⅡ

博士前期課程：精神看護学特論,精神看護学援助論Ⅱ

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員,入試・広報委員会委員,倫理委員会委員

【外部資金獲得】

なし

安達 寛人

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 塩谷幸祐, 田口玲子, 安達寛人, 澤恭弘, 境原三津夫 (2019.10): 医療観察法入院処遇対象者の通院処遇への移行を促進するために ―A県の指定通院医療機関における調査から―, 日本セーフティプロモーション学会誌, 12(2),pp21 - 26(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 安達寛人, 中村幸恵, 永吉 雅人, 岡村典子(2019.6): 医療観察法病棟における勤務計画表作成に関する実態調査, 日本精神保健看護学会(愛知県)

5. その他の研究活動(1件)

- 1) 長谷川雅美, 田口玲子, 後田穰, 安達寛人, 舩山健二: 病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本精神保健看護学会 会員
- ・ 日本看護科学学会 会員
- ・ 日本看護歴史学会 会員
- ・ 新潟看護ケア研究学会 会員

【社会活動】

- ・ うつ病者の会

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ,精神看護学演習,精神看護学実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

学生委員会委員,看護研究交流センター地域社会貢献部門員
陸上サークル顧問

【外部資金獲得】

なし

船山 健二

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(3件)

- 1) 船山健二(2019.7): 受刑者の看護からみた被害・加害・社会, 日本フォレンジック看護学会誌, 5巻2号, pp63 - 68(査読無)
- 2) 船山健二(2019.9): 知的障がい者の性的トラブルに向き合う, 地域保健, 50巻5号, pp24 - 27(査読無)
- 3) 山田正実、河原畑尚美、川島良子、野口裕子、大口洋子、船山健二(2019.10): 新潟県立看護大学における防災に関する取り組みー学生の安否確認手段の整備と避難所開設支援体制の整備ー, 日本セーフティプロモーション学会誌, 12巻2号, pp27 - 32(査読有)

3. 著書(2件)

- 1) 船山健二(2020.3): URP 先端的都市研究シリーズ「刑務所出所者等の意思決定・意思表示の難しさと当事者の声にもとづく支援」, p23-39 刑務所医療における意思決定支援, 大阪市立大学都市研究プラザ(大阪)
- 2) 船山健二(2020.3): 看護学生のための精神看護学 改訂版, p279-302 第12章 司法精神看護, 株式会社大学教育出版(岡山)

4. 学会発表(1件)

- 1) 船山健二、五十嵐愛子(2019.6): 貧困の連鎖:虐待・性風俗・薬物依存症事例に看護職はどう向き合うか, 日本看護倫理学会第12回年次大会(大阪)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 船山健二、小林宏至、室亜衣、小島美里、大久保明子: 学齢期にある超低出生体重児の母親が抱えるニーズに応える活動, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 長谷川雅美、田口玲子、後田穰、安達寛人、船山健二: 病相反復を抱えながら職業継続に至っている双極性障害者のレジリエンス獲得の様相, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本フォレンジック看護学会 理事
- ・ 日本精神保健看護学会 会員
- ・ 日本看護教育学学会 会員
- ・ 日本看護倫理学会 会員
- ・ 日本医学哲学・倫理学会 会員
- ・ 日本刑事政策研究会 会員
- ・ 第6回日本フォレンジック看護学会学術集会/示説発表B 群座長

【社会活動】

- ・ 新潟保護観察所上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ
- ・ 新潟医療福祉大学 看護学部 看護学科: 精神看護学概論「司法精神看護」非常勤講師 2019/6/27
- ・ 上越地区保護司会: 自主研修会「受刑者が置かれている状況について」講師 2019/11/26
- ・ 日本福祉大学社会福祉総合研修センター: 性暴力被害者支援看護職養成プログラム 講師 2019/12/7
- ・ NPO 法人しあわせなみだ: 映画「くちづけ」上映会&トークセッション「障がい児者への性暴力が認識される社会へ」トークセッションゲスト 2020/3/8
- ・ 新潟保護観察所上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2019/4/9
- ・ 新潟保護観察所上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2019/5/14
- ・ 新潟保護観察所上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2019/6/11

- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2019/7/9
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2019/8/13
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2020/2/18
- ・新潟保護観察所上越駐在官事務所「薬物再乱用防止プログラム」ファシリテータ 2020/3/10
- ・書籍紹介『ぼくは、かいぶつになりたくないのに』（日本フォレンジック看護学会誌 5 巻 2 号 55 頁掲載）
- ・日本フォレンジック看護学会誌 5 巻 2 号 巻頭言「新たな時代におけるフォレンジック看護」
- ・2020 年 2 月 18 日 22:00～22:55 放送 NHK ラジオ第一全国放送「NHK ジャーナル ジャーナル地域発」刑務所出所者の福祉支援に関するコメント出演
- ・『地域保健』50 巻 3 号～51 巻 2 号連載「罪を犯した人の生活と健康支援」執筆
- ・うつ病当事者会「ひなたぼっこ」スタッフ
- ・日本フォレンジック看護学会 第 6 回学術集会 一般演題 査読者
- ・日本フォレンジック看護学会 教育推進委員会主催研修会 2019/4/14 司会担当
- ・日本フォレンジック看護学会 総会 2019/8/31 司会担当

【学内教育活動】

学 部：精神看護学Ⅱ,精神看護学演習,精神看護学実習,総合実習（精神看護学）,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員,ハラスメント相談員

【外部資金獲得】

1) 松本俊彦(研究代表者)

研究分担者:高橋康史 研究協力者:市川岳仁 中川賀雅 中村正 西井開 船山健二 朴希沙 安田恵美(2019～2021):再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究,平成31年度厚生労働省科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)

2) 金澤真理(研究代表者)

渡邊賢 徳永元 井口尚樹 大屋未輝 高橋康史 船山健二 安田恵美(2019～2020):ヴァルネラブルな高齢者の社会参加基盤の整備に関する研究,合同会社ウェルネスオープンリビングラボ健康科学研究助成

平澤 則子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(3件)

- 1) 野口裕子, 川野英子, 平澤則子, 飯吉令枝 (2020.3): 文献検討から考えられる難病療養者の災害時個別支援計画に関する課題, 日本難病看護学会誌, 24(3), pp271 - 279(査読有)
- 2) 野口裕子, 平澤則子(2020.2): 障害児の自然災害時の備えに関する国内文献検討, 北関東医学, 70(1), pp37 - 44(査読有)
- 3) 永吉雅人, Simon Elderton, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子, 境原三津夫, 大庭重治(2020.3): 化学物質過敏症-上越市における調査結果に基づいて-, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 26 巻, pp39 - 41(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4件)

- 1) 山田知佳, 八子円, 平澤則子(2019.7): 新人期に難病保健を担当する保健所保健師が認識する活動における特徴, 第22回日本地域看護学会学術集会(横浜市)
- 2) 八子円, 山田知佳, 平澤則子(2019.7): 難病保健を担当する保健師の実践能力の向上に向けてから A 県職員保健師会研究集録の分析~, 第22回日本地域看護学会学術集会(横浜市)
- 3) 細道奈穂子, 平澤則子, 飯吉玲枝(2019.7): 短期入所施設の看護師が長期利用者のケアにおいて認識する課題, 第22回日本地域看護学会学術集会(横浜市)
- 4) 野口裕子, 平澤則子(2020.1): 障害児の災害時の備えに関する国内文献検討, 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会(松山市)

5. その他の研究活動(4件)

- 1) 井上智代, 高林知佳子, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 飯吉玲枝, 前川絵里子: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響-2年間の継続介入の影響分析-, 2018年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子, 飯吉玲枝: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響-3年間の継続介入の影響分析-, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 3) 藤井和子, 笠原芳隆, 八島猛, 池田吉史, 佐藤ゆかり, 留目宏美, 平澤則子, 野口裕子, 永井弘子, 岩脇勉, 今井賢一, 引場陽子, 横田恵, 高地朋美: 特別な教育的ニーズのある子どもの学びと生活を支える多職種協働による個別的教育支援計画作成・支援会議のあり方の検討-地域の大学との連携による事例検討会の実践を通して-, 平成30年度上越教育大学研究プロジェクト
- 4) 大庭重治, 境原三津夫, 渡辺弘之, 永吉雅人, 大久保明子, 中島通子, 平澤則子, 高柳智子 他: 健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための「地域連携コモンズ」形成の試み, 2018~2019 上越教育大学研究プロジェクト

【学会等における活動】

- ・ 日本地域看護学会代議員
- ・ 日本地域看護学会査読委員
- ・ 日本地域看護学会広報委員会委員
- ・ 日本在宅ケア学会代議員
- ・ 日本看護科学学会代議員
- ・ 日本難病看護学会理事
- ・ 日本難病看護学会認定・難病看護師認定委員

- ・ 日本難病看護学会教育委員会委員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会査読委員
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本公衆衛生看護学会
- ・ 北関東医学会
- ・ 日本福祉保健学会
- ・ 第24回日本在宅ケア学会示説発表 座長
- ・ 第22回日本地域看護学会シンポジウム1 座長
- ・ 第24回日本難病看護学会公開セミナー2 座長
- ・ 第24回日本難病看護学会学術集会 プレセミナー 実行委員

【社会活動】

- ・ 上越市健康福祉部指定管理者選定委員会委員
- ・ 上越市建築審査会委員
- ・ 上越市子ども・子育て支援総合計画策定委員会副委員長
- ・ 魚沼市いのちを支える自殺対策推進会議委員
- ・ 上越市子どもの権利委員会委員
- ・ 看護協会看護管理者研修会講師
- ・ 新潟市民大学講師
- ・ 長岡崇徳会学習会講師
- ・ NPO法人新潟難病支援ネットワーク理事
- ・ NPO法人上越元気塾副塾長
- ・ 上越歩みの会
- ・ 短期入所施設の看護師が長期利用者のケアにおいて認識する課題

【学内教育活動】

学 部：地域看護学概論,地域看護学概論,公衆衛生看護学概論,看護行政論,総合科目,公衆衛生看護管理論,疫学,
公衆衛生看護論演習,公衆衛生看護学実習,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ
博士前期課程：地域看護学特論,地域看護学援助論Ⅰ,地域看護学特別演習,看護研究法,地域看護学援助論Ⅱ
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

教学委員会副委員長, 教務委員会委員,国際交流委員会委員,自己点検評価特別委員会委員,ハラスメント防止特別委員会委員,外部評価特別委員会委員,看護研究交流センター先駆的学習支援部門長

【外部資金獲得】

なし

高林 知佳子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(2件)
 - 1) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 飯吉令枝:住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域住民に与える影響——3年間の継続介入の結果分析—, 令和元年新潟県立看護大学学内共同研究助成
 - 2) 井上智代, 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子:住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響 -2年間の継続介入の影響分析-, 平成30年新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本地域看護学会
- ・ 日本健康教育学会
- ・ 日本生殖看護学会
- ・ 日本看護管理学会
- ・ 日本難病看護学会
- ・ 北陸公衆衛生学会
- ・ 新潟医学会

【社会活動】

- ・ 妙高市こころと命のネットワーク会議委員
- ・ 上越市健康づくり推進協議会委員
- ・ 妙高市健康づくり推進協議会委員
- ・ 新潟県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員
- ・ 富山福祉短期大学非常勤講師
- ・ 令和元年度第1回上越圏域新採用保健師研修会講師
- ・ 令和元年度第2回上越圏域新採用保健師研修会講師
- ・ 令和元年度第3回上越圏域新採用保健師研修会講師
- ・ 令和元年度上越圏域採用3～5年目保健師研修会講師
- ・ 新潟県立看護大学地域看護学通信(第2号、第3号)発行:妙高市上町地区用
- ・ 新潟県立看護大学地域看護学通信(第2号、第3号)発行:妙高市猪野山地区用
- ・ 令和元年度上越市・新潟県立看護大学連携事業「医療・健康福祉市民フォーラム」実行委員
- ・ Public Health Nursing の論文査読

【学内教育活動】

学 部:公衆衛生看護技術論Ⅰ,公衆衛生看護技術論Ⅱ,対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ,公衆衛生看護学演習,公衆衛生看護学実習,在宅看護論演習,在宅看護論実習,公衆衛生看護管理論,疫学,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習

博士前期課程：地域看護学特論,地域看護学援助論Ⅰ,地域看護学援助論Ⅱ,地域看護学特別演習
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

教務委員会委員,国際交流委員会委員,看護研究交流センター地域社会貢献部門長
学年担任

【外部資金獲得】

なし

川野 英子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 野口裕子、川野英子、平澤則子、飯吉令枝(2020.3): 文献検討から考えられる難病療養者の災害時個別支援計画に関する課題, 日本難病看護学会誌, 24(3),pp271 - 279(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(4件)

- 1) 川野英子, 東條紀子(2019.8): 学生が同行訪問する在宅終末期療養者の選定時における訪問看護師の留意点, 日本看護管理学会(新潟県)
- 2) 谷口美穂, 川野英子, 臼井孝子, 池田美里, 渡邊美香, 柳澤篤志, 安部雅子, 古川祐子(2019.8): A 病院における未就学児を療育する看護職のレジリエンスの特徴, 日本看護管理学会(新潟県)
- 3) 川野英子, 東條紀子(2019.7); 訪問看護ステーション実習時における終末期ケアに関する指導内容の現状, 日本在宅ケア学会(宮城県)
- 4) 川野英子(2019.9): 訪問看護ステーション実習時における終末期の家族へのケアに関する指導内容および学習成果の現状, 日本家族看護学会(京都府)

5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本家族看護学会
- ・ 日本看護管理学会
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本在宅ケア学会
- ・ 日本地域看護学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本難病看護学会

【社会活動】

- ・ 介護支援専門員研修「専門研修課程Ⅰ」研修企画委員
- ・ 新潟県介護支援専門員協会「養成研修委員会」委員
- ・ 上越市介護保険運営協議会委員
- ・ 国立病院機構宇都宮病院 看護研究指導 講師
- ・ 看護研究交流センター出前講座「訪問看護師の1日」講師 2019.5.31
- ・ 看護研究交流センター出前講座「家族の健康を考える」講師 2019.6.5
- ・ 看護研究交流センター出前講座「家族の健康を考える」講師 2019.10.8
- ・ 看護研究交流センター出前講座「家族の健康を考える」講師 2019.11.27
- ・ 看護研究交流センター出前講座「家族の健康を考える」講師 2019.12.18
- ・ 新潟県福祉保健部 平成30年度新潟県看護職員臨地実習指導者養成講習会 講師
- ・ 新潟県介護支援専門員協会 「専門研修課程Ⅰ」講師

【学内教育活動】

学 部：在宅看護論,在宅看護論演習,在宅看護論実習,公衆衛生看護学実習,公衆衛生看護学演習,看護研究法,総合実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,家族看護論
博士前期課程：がん看護学特論Ⅰ,老年看護学特論Ⅲ,地域看護学特論,地域看護学援助論Ⅰ,地域看護学援助論

Ⅱ,地域看護学別演習

博士後期課程：地域・在宅看護学特論

【学内委員会等の活動】

実習委員会委員,入試広報委員会委員,紀要委員会委員,看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

なし

井上 智代

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(7 件)
 - 1) 東條恵美, 井上智代(2019.5): 労働者を対象としたストレスチェックに関する研究の動向, 第 92 回日本産業衛生学会(愛知県)
 - 2) 飯吉令枝, 井上智代, 駒形三和子(2019.10): 豪雪地域に暮らす高齢者の健康や生活行動と運転免許返納の実態, 第 78 回日本公衆衛生学会総会(高知県)
 - 3) 伊藤直子, 渡辺修一郎, 井上智代(2019.10): Association between the body mass index values and the self-assessed physique among the community-dwelling elderly in Japan. The 11th IAGG Asia / Oceania Regional Congress 2019 (台湾)
 - 4) 高橋由香, 原田康江, 大湊純子, 井上智代(2019.11): 基礎看護実習 II で学生が感じる喜び, 新潟県厚生農業協同組合連合会令和元年度看護部研究発表会(新潟県)
 - 5) 井上智代, 渡辺修一郎, 伊藤直子, 飯吉令枝, 田辺生子(2020.1): 75 歳以上高齢者の個人レベルの農村ソーシャル・キャピタルと高次生活機能との関連, 第 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会(愛媛県)
 - 6) 久保野裕子, 井上智代, (2020.1): 我が国におけるポピュレーションアプローチの動向, 第 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会(愛媛県)
 - 7) 田辺生子, 渡辺修一郎, 井上智代(2020.1): 農村部在住の後期高齢者における食料品の入手事情と食品摂取多様性との関連, 第 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会(愛媛県)
5. その他の研究活動(2 件)
 - 1) 井上智代, 高林知佳子, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子, 飯吉令枝: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響—2 年間の継続介入の影響分析—, 平成 30 年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
 - 2) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 前川絵里子, 久保野裕子, 飯吉令枝: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域住民に与える影響—3 年間の継続介入の結果分析—, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・ 上越市食育推進会議 委員
- ・ 上越市開発審査会 委員
- ・ 妙高市介護保険運営協議会 委員
- ・ 新潟県看護協会 在宅看護研修会講師「地域ケアシステム」
- ・ 看護研究交流センター看護学習支援公開講座 さあはじめよう看護研究③「看護研究方法の理解」
- ・ 2019 年度 新潟県看護教員養成講習会 「看護教育課程演習」 1
- ・ 2019 年度 新潟県看護教員養成講習会 「看護教育課程演習」 2
- ・ 2019 年度 新潟県看護教員養成講習会 「看護教育課程演習」 3
- ・ 2019 年度 新潟県看護教員養成講習会 「看護教育課程演習」 4
- ・ 2019 年度 新潟県看護教員養成講習会 「看護教育課程演習」 5
- ・ 2019 年度 新潟県看護教員養成講習会 「看護教育課程演習」 6

- ・ 2019年度 新潟県看護教員養成講習会 「看護教育課程演習」 7
- ・ 2019年度 新潟県看護教員養成講習会 「看護教育課程演習」 8
- ・ 2019年度 新潟県看護教員養成講習会 「看護教育課程演習」 9
- ・ 社会福祉法人 大石福祉会 外部委員
- ・ 桜美林大学老年学総合研究所プロジェクト客員研究員
- ・ JA 新潟厚生連中央看護専門学校 研究指導
- ・ 新潟県立看護大学（地域看護学）通信第2.3号：妙高市上町地区
- ・ 新潟県立看護大学（地域看護学）通信第2.3号：妙高市猪野山地区

【学内教育活動】

学 部：公衆衛生看護学演習,公衆衛生看護学実習,在宅看護論実習,専門ゼミナールⅠ,専門ゼミナールⅡ,総合実習,対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ,公衆衛生看護技術論Ⅰ,公衆衛生看護技術論Ⅱ,対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ,公衆衛生看護管理論

博士前期課程：老年看護学特論Ⅲ,地域看護学特論,地域看護学援助論Ⅰ,地域看護学援助論Ⅱ,地域看護学特別演習

博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

国家試験就職委員会副委員長,研究推進委員会委員,看護研究交流センター地域課題研究開発部門員
保健指導員,4年生保健師国家試験 学内教員へのガイダンス,4年生保健師国家試験 学生向けガイダンス

【外部資金獲得】

- 1) 飯吉令枝(研究代表者)
井上智代(2018～2020)：豪雪地域高齢者の運転免許返納後の健康・生活行動の維持とその要因に関する縦断的研究, 科学研究費助成事業(基盤研究C)
- 2) 伊藤直子(研究代表者)
渡辺修一郎, 森田恵子, 井上智代(2019～2021)：地域在住高齢者の口腔機能向上を目指した呼吸筋トレーニングプログラムの確立, 科学研究費助成事業(基盤研究C)

野口 裕子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(4件)

- 1) 山田正実, 河原畑尚美, 川島良子, 野口裕子, 大口洋子, 舩山健二(2019.9): 新潟県立看護大学における防災に関する取り組み-学生の安否確認手段の整備と避難所開設支援体制の整備-, 日本セーフティプロモーション学会誌, 12 (2) ,pp27 - 32(査読有)
- 2) 野口裕子, 平澤則子(2020.2): 障害児の自然災害時の備えに関する国内文献検討, The Kitakanto Medical Journal, 70(1),pp37 - 44(査読有)
- 3) 野口裕子, 川野英子, 平澤則子, 飯吉令枝(2020.3): 文献検討から考えられる難病療養者の災害時個別支援計画に関する課題, 日本難病看護学会誌, 24 (3) ,pp271 - 279(査読有)
- 4) 永吉雅人, Simon Elderton, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子, 境原三津夫, 大庭重治(2020.3): 化学物質過敏症-上越市における調査結果に基づいて-, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, 26,pp39 - 41(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(1件)

- 1) 野口裕子, 平澤則子(2020.1): 障害児の災害時の備えに関する国内文献検討, 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会(松山市)

5. その他の研究活動(4件)

- 1) 大久保明子, 室亜衣, 野口裕子: 学童期・思春期にある医療的ケアを必要とする児を養育する母親の体験と支援ニーズに関する研究, 2018年度新潟県立看護大学学内協同研究助成
- 2) 井上智代, 高林知佳子, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響-2年間の継続介入の影響分析-, 2018年度新潟県立看護大学学内協同研究助成
- 3) 藤井和子, 笠原芳隆, 八島猛, 池田吉史, 佐藤ゆかり, 留目宏美, 平澤則子, 野口裕子, 永井弘子, 岩脇勉, 今井賢一, 引場陽子, 横田恵, 高地朋美: 特別な教育的ニーズのある子どもの学びと生活を支える多職種協働による個別的教育支援計画作成・支援会議のあり方の検討-地域の大学との連携による事例検討会の実践を通して-, 平成30年度上越教育大学研究プロジェクト
- 4) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 前川絵里子, 久保野裕子, 飯吉令枝: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響-3年間の継続介入の影響分析-, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 公衆衛生看護技術論Ⅰ, 公衆衛生看護技術論Ⅱ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

災害時看護支援特別委員会委員,図書委員会委員
学年担任

【外部資金獲得】

なし

前川 絵里子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(2件)
 - 1) 井上智代, 平澤則子, 高林知佳子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子, 飯吉令枝:住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響 – 2年間の継続介入の影響分析 –, 2019年度(2018年度採択)新潟県立看護大学学内共同研究助成。
 - 2) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子, 飯吉玲枝:住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響 – 3年間の継続介入の影響分析 –, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 公衆衛生看護技術論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ, 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ, 総合実習

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

国家試験対策・就職委員会委員, 看護研究交流センター先駆的学習支援部門員

【外部資金獲得】

なし

久保野 裕子

1. 原著論文(なし)

2. その他論文(1件)

- 1) 永吉雅人, Simon Elderton, 平澤則子, 飯吉令枝, 野口裕子, 久保野裕子, 境原三津夫, 大庭重治(2020.3): 化学物質過敏症-上越市における調査結果に基づいて-, 上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要, Vol.26, pp39 - 41(査読有)

3. 著書(なし)

4. 学会発表(3件)

- 1) 久保野裕子, 田村須賀子(2019.11): 生活習慣病を有する社員の在職中及び退職後の健康行動に向けた産業看護職の支援内容, 第39回日本看護科学学会学術集会(石川)
- 2) Sugako Tamura, Sanae Haruyama, Ayumi Ogami, Ayaka Yokoyama, Takami Okuno, Yuko Kubono, Shingo Esumi(2020.1): Development of a health guidance program for prevention of onset and progression of lifestyle-related diseases using ICT, 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars(Chang Mai, Thailand)
- 3) 久保野裕子, 井上智代(2020.1): わが国におけるポピュレーションアプローチの動向, 第8回日本公衆衛生看護学会学術集会(愛媛)

5. その他の研究活動(2件)

- 1) 井上智代, 高林知佳子, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響-2年間の継続介入の影響分析-, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成
- 2) 高林知佳子, 井上智代, 平澤則子, 野口裕子, 久保野裕子, 前川絵里子, 飯吉玲枝: 住民との協働によるパートナーシップ型地域診断実習が地域に与える影響-3年間の継続介入の影響分析-, 令和元年度新潟県立看護大学学内共同研究助成

【学会等における活動】

- ・ 日本産業衛生学会
- ・ 日本公衆衛生学会産業看護部会
- ・ 日本公衆衛生学会
- ・ 日本公衆衛生看護学会
- ・ 日本看護科学学会
- ・ 日本産業衛生学会北陸甲信越地方会 会員
- ・ 新潟県産業看護部会 会員

【社会活動】

なし

【学内教育活動】

学 部: 対象別公衆衛生看護活動論Ⅲ, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 総合実習, 専門ゼミナールⅠ, 専門ゼミナールⅡ

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

【学内委員会等の活動】

衛生委員会委員, 看護研究交流センター地域社会貢献部門員

【外部資金獲得】

1) 春山早苗(研究代表者)

田村須賀子,小谷和彦,大神あゆみ,鈴木達也,横山絢香,高倉恭子,奥野敬生,久保野裕子他(2018～2021): 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラム及びその実践のための手引きの作成と検証, 厚生労働科学研究費補助金

小泉 美佐子

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他の研究活動(なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会 評議員
- ・ 日本認知症ケア学会 代議員
- ・ 日本老年泌尿器科学会 評議員
- ・ 日本看護研究学会 評議員
- ・ 2019年度新潟県看護協会看護学会

【社会活動】

- ・ 新潟県福祉保健部から「令和元年度看護職員養成事業」の委託を本学が受け、「専門性の高い看護職員の育成検討会」の委員長を務める。
- ・ 上越市・新潟県立看護大学連携事業 令和元年度医療・福祉市民フォーラム実行委員会委員長

【学内教育活動】

学 部：総合科目
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし

【学内委員会等の活動】

【外部資金獲得】

なし

各種委員会等の 活動報告

活動報告掲載順

ハラスメント防止特別委員会	8 3
自己点検・評価特別委員会	8 4
情報ネットワーク特別委員会	8 5
国際交流委員会	8 6
災害時看護支援特別委員会	8 8
倫理委員会	8 9
教務委員会	9 0
実習委員会	9 3
学生委員会	9 5
研究推進委員会	9 6
F D委員会	9 8
国家試験対策・就職委員会	1 0 3
入試・広報委員会	1 0 5
図書委員会	1 0 7
紀要委員会	1 0 9
教学委員会	1 1 0
入学委員会	1 1 3

令和元年度 ハラスメント防止特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎長谷川雅美、○市川克巳、平澤則子、岡村典子、小林綾子、大口洋子
(ハラスメント防止相談員)
酒井禎子、徐淑子、舩山健二、上坂唯子
事務局：吉澤恵二

2. 活動概要

- (1) 新入の学部生・大学院生に対し、大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施し、チラシを配布して周知を図った。
また、新入教職員に対しても大学におけるハラスメント防止と相談対応についてガイダンスを実施した。
- (2) ハラスメント防止の啓発に向けて、名刺サイズのカードを作成し、男女トイレ、学部生の男女更衣室、院生室、教員談話室等に設置した。
- (3) ハラスメント相談のしやすい環境を整えるため、引き続き上越教育大学の教員に学外相談員を委嘱した。
- (4) 教職員・学部生・大学院生を対象として、主にアカデミックハラスメントの防止を中心に、ハラスメント防止研修会を開催した。

3. 次年度に向けた課題

学部生は相談する機会が多くあると思うが、大学院生は個別指導が多く外から見えない部分が多い。今後は人数が増加している大学院生への対応も重要になる。

令和元年度 自己点検・評価特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎長谷川雅美、○市川克巳、境原三津夫、平澤則子、舟島なをみ、小野幸子
事務局：吉澤恵二

2. 活動概要

(1) 教員評価の実施（平成30年度業績に対する評価）

教員活動業績の自己申告シート（教育研究活動業績入力フォーム）を前年度末までに提出いただき、エラーチェック、エラー修正及び集計作業を行った。その後、7月の教授会において集計結果を報告するとともに、学長表彰者の氏名公表を行い、9月には学長表彰者へ各5万円ずつ個人研究費の追加配分を行った。

(2) 平成30年度自己点検評価報告書の編集

教員評価と同一の自己申告シート（教育研究活動業績入力フォーム）及び各種委員会の活動報告を前年度末までに提出いただき、エラーチェック、エラー修正及び集計作業を行い、5月末には本学リポジトリ登録を行った。

(3) 著書・研究論文数や学会発表数の集計

平成30年度の各教員の著書・研究論文数や学会発表数を集計し、法人の中期計画・評価の実績値及び平成30年度の実績値として計上した。

(4) 新規入力フォームの修正・改善（令和元年度業績の入力用）

年度新規に作成した教育研究活動業績入力フォームの問題点を洗い出し、整理・検討の上、12月には修正・改善を図った。

3. 次年度に向けた課題

(1) 教員評価

令和元年度教員業績の評価・結果分析を行うとともに、令和2年度以降の教員評価の仕方や評価項目、評価基準の見直し等を行い、入力フォームに反映させる。

令和元年度 情報ネットワーク特別委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎永吉雅人、境原三津夫、長谷川雅美、藤田 尚、市川克巳(事務局長)、
佐藤一敏(事務局次長)、吉澤恵二(教務学生課長)
事務局：本山宏一(庶務係長)

2. 活動概要

- (1) 情報システムユーザーアカウント管理事務マニュアル（令和元年10月1日施行）を整備・周知した。
- (2) サイバーセキュリティ対策等の強化に向け、体制（最高情報セキュリティ責任者 CISO）、戦略マネジメント層及び組織内 CSIRT）の構築に向け検討を行った。
- (3) Windows 7 サポート終了に係る対応を行った。
- (4) 学内のネットワーク障害について対応を行った。
- (5) 文部科学省主催の各層セキュリティ研修に参加（計4回）し、最高情報セキュリティ責任者（CISO）、戦略マネジメント層及び組織内 CSIRT 体制の構築の必要性を学ぶとともに、インシデント対応について理解を深めた。
- (6) 昨年度末パスワードポリシー策定に伴って、1年間猶予としていたパスワードの変更を周知した

3. 次年度に向けた課題

サイバーセキュリティ対策等の強化に向け、体制（最高情報セキュリティ責任者（CISO）、戦略マネジメント層及び組織内 CSIRT）の構築に向け、引き続き検討する。

また、情報環境が著しく変化し、迅速かつ安全なセキュリティ対策が必要とされる事案が発生している。このため、円滑かつ安全な情報環境の維持が図れる体制維持・整備が引き続き大きな課題である。

情報ネットワーク特別委員会 実行部会

1. 委員構成

委員：◎永吉雅人、藤田尚、佐藤一敏（事務局次長）、本山宏一（庶務係長）、
森田裕美（教務係長）、宮崎達也（主任）
事務局：山崎明彦（主事）

2. 活動概要

- (1) 自習室の情報機器の監視管理のための見回りを行っている。
- (2) プリンター出力超過管理として毎月のプリンター出力を確認し、超過の学生に関して指導を行っている。
- (3) WIFI ルータおよび盗難防止システム確認
WIFI ルータおよび盗難防止装置としてネットワークカメラの稼働確認を行い、無線 LAN 環境と物品の保全につとめている。
- (4) セキュリティ情報の周知
脆弱性を有するソフトウェアのアップデート依頼や不審メールなどの周知を行い、学内ネットワークの保全につとめている。

1. 委員会構成

委員：◎樺澤三奈子、○Simon Elderton、平澤 則子、高林知佳子、西田 絵美、
渡辺 弘之、谷内田 潤子
事務局：金津 和利、関口 詩織

2. 活動概要

(1) 法人計画 [54] 研究水準の向上や国際的な視野を養える国際交流事業に関する事項

6月12日(水) V限に、JICA 青年海外協力隊看護師派遣事業に参加された本学卒業生の持永孝弘氏を招き、学生および教職員を対象に、「アフリカ ブルキナファソ国における学校保健活動に関する講演会」を開催した。学生12名、教職員9名からの参加があった。

セミナーに参加した学生から国際協力への動機付けとなったという感想が寄せられた。

講演会終了後、持永氏の国際交流活動を広く紹介するため、講師の許可を得て、講演内容の要約ポスターを学内に掲示した。

(2) 法人計画 [55] 海外大学との交流協定締結・学生及び教員の国際交流促進に関する事項

①危機管理対策マニュアルの作成

近年の海外における事件・事故等の危機発生リスクの高まりに鑑み、本学の国際交流活動の推進において学生と教職員が安全に研修を遂行することを目的に、本マニュアルを作成した。本マニュアルは、外務省海外安全情報および文部科学省による「大学における海外留学に関する危機管理ガイドライン」に基づき、交流事業において適切なリスクマネジメントがなされるよう、教職員および学生に、事前の情報収集の重要性や危機に直面した際の対処方法について情報提供を行うとともに、危機発生時に大学として対応すべき内容を定めている。特に、今回はニュージーランド看護研修の実施に先立ち、本学とニュージーランドクライストチャーチ工科大学との間の研修に関わる情報共有と意思決定の流れを示した。

本マニュアルは、運営評議会の審議により、運営評議会および当委員会において運用することが承認された。

②ニュージーランド看護研修

国際看護演習(1単位)として、クライストチャーチ工科大学との連携を基に、ニュージーランド看護研修を企画し、企画・募集・審査・事前研修を行った。

面接等による審査の結果、参加者10名(1年次生7名、2年次生3名)が決定された。事前研修では、ニュージーランドにおける保健・医療・福祉制度や語学研修等を実施した。

2月末に新型コロナウイルス感染症拡大に伴う現地研修の中止が決定されたことを受け、参加者への説明会の開催、保護者への説明文書の送付、履修取り消し手続きの支援、旅費等の返金手続き等の事後対応を行った。またクライストチャーチ工科大学に対し、感染拡大防止のための大学による措置として研修を中止する旨を説明し、理解を得た。

③エジプト看護管理者研修 新潟プログラムの運営

9月26日(木)から8日間にわたり、エジプト看護管理者研修における新潟プログラムを運営した。本研修は、エジプト・日本両政府による「エジプト・日本教育パートナーシップ(EJEP)」事業の一環として行われ、エジプトの看護管理者10名が東京、大阪、新潟、長野で日本における看護管理を学ぶものであり、平成30年度から年1回、実施されている。本学は研修を受託した佐久大学の協力校として新潟プログラムを担当した。

新潟プログラムは、本学のよさこいサークル主催による歓迎会をはじめ、学部授業「看護管理」参加、新潟県立中央病院・上越地域医療センター病院での病院研修、上越市母子保健事業・こどもセンター事業の見学研修を含むものであった。

研修生は、研修生は、地方都市であっても大都市と同等の医療・保健サービスの質が担保されていることに驚き、目的的で綿密な看護管理を参考にしたいと語っていた。また、本学や研修施設での歓迎と研修への手厚いサポートに対する感謝の言葉が寄せられた。

④海外大学との新規交流協定締結に向けた活動

次々年度海外看護研修の研修先の情報収集を開始した。研修費用が比較的安価で学生が参加しやすい候補地として、ベトナム、マレーシア、フィリピンなどが挙げられた。これらの国に焦点を絞り、拠点となる看護系大学の情報収集を開始した。

⑤その他

・国際交流に関わる情報交換

日本看護系大学協議会主催による国際交流推進委員会企画研修会（2月）、新潟県国際理解教育推進協議会総会（3月）に、情報収集を目的に本委員会メンバーが参加する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止された。

・その他交流

学生ボランティアサークル主催によるドイツパラリンピック柔道選手との交流会（4月）において、本委員会メンバーが協力者として企画運営をサポートした。

3. 次年度の課題

(1) 研究水準の向上を図り国際的な視野を養える国際交流事業の継続的な実施：

次年度の交流事業として、JICAでの勤務経験のある助産師による講演会を企画する。

(2) クライストチャーチ工科大学との連携に基づく海外研修プログラムの精練：

今年度の研修が中止となったため、次年度研修において、危機管理マニュアルの内容を含めたプログラムの評価を行う。

(3) 既存の海外研修プログラムの刷新に向けた企画立案

(4) エジプト看護管理者研修の受け入れを通じて学生及び教員の国際交流の促進：

次年度のエジプト看護管理者研修延期に伴い、時期が決定次第、企画立案を再開する。

以上

1. 委員会構成

委員：◎山田正実、○河原畑尚美、川島良子、野口裕子、大口洋子、舩山健二
事務局：本山宏一、河野真実

2. 活動概要

(1) 学生および教職員への研修および啓発活動

新入生（学部、大学院）ガイダンスでは、安否確認システム（以下、ANPIC）へのメールアドレス登録のサポートを行った。学部1年生には日頃の防災の備えや災害発生時の行動等について周知し、全学的な啓発として非常持ち出しグッズ等の展示を行った。学生が多く居住する大学周辺（新道区）の災害時の避難場所の変更に伴い、その周知の徹底に努めた。

学生と教職員を対象にANPICを活用した安否報告訓練を3回実施した（5月、10月、令和2年2月）。6月発生の山形県沖の地震（村上市で最大震度7強）では、自動送信された安否確認メールへの返信が12時間後90%以上であり、訓練の成果を確認した。また、安否報告訓練に合わせて実習担当教員による実習中の学生の安否確認・報告訓練を実施し、事務局では教員の安否報告メールから実習学生の安否を速やかに集計する訓練を実施した。

新任の教職員を対象に避難所開設初動対応シミュレーション研修会を実施した。対象者全員の参加があり、実施後のアンケートから初動対応を理解できたという回答を得た。

(2) ANPICを活用した情報連絡体制の充実

水害リスクの増大に伴うANPICを活用した洪水時の安全確保メールの作成と活用、及び大地震発生時の大学からの安否確認メール送信手順をマニュアル化した経緯から、今後もANPICを活用した安否確認や情報発信を行うためにANPIC運用マニュアルを作成した。

(3) 他団体との連携事業

- ①新潟県看護系大学等災害支援連携協議会：今年度は会長校として、第30回協議会を本学にて開催し、第31回協議会をメール会議で開催した。
- ②上越災害医療コーディネートチーム：設置要綱が改正され、本学は構成機関から外れた。同チーム主催の通信訓練に参加し、上越地域災害医療研修会に2名が参加した。
- ③避難所開設支援関連：大雨特別警報が発令された10月の避難所開設では、上越市の対応職員と協力し、6名の避難者を受け入れて夜間の安全を確保した。本学を避難所とする住民を対象とした上越市主催の避難所運営図上訓練に本学から2名が参加した。

(4) 災害時支援の必要物品の管理

委員会管理の物品点検・確認を行い、支援用物品の充実及び必要物品の検討を行った。また、上越市の災害用備蓄品の管理も適正に行っている。予算50,400円は、物品収納棚や防災啓発物品を購入し、50,241円を執行した。啓発物品は効果的に使用する予定である。

3. 次年度に向けた課題

ANPIC機能を活用するために、全学生と教職員のメールアドレスの登録サポートを継続するとともに、ANPIC運用マニュアルの完成と周知、及びマニュアルの有効性を検証する。避難所開設支援を含めた実践的な研修や訓練を継続あるいは発展させ、有事に備える。

令和元年度 倫理委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎酒井 禎子、○藤田 尚、堀江 正男、岡村 典子、後田 穰
学外委員：村中 智彦、小林 優子、橋本 明浩
事務局：佐藤 一敏、関口 詩織

2. 活動概要

(1) 倫理審査とその結果について

倫理審査申請書（研究計画書）の審査を、基本方針である「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守するとともに、「公立大学法人新潟県立看護大学研究倫理規程」に則って行った。

審査件数は総計 34 件（新規申請 28 件、変更申請 6 件）であり、3 月末時点での承認件数は 30 件、条件付き承認 2 件であった。

(2) 研究倫理研修会の開催について

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を踏まえた研究倫理研修として、令和元年 8 月 27 日（火）16 時 30 分～17 時 50 分に研究倫理研修会を実施した。「看護研究を行う上で必要な研究倫理」をテーマとし、講師として、竹之内沙弥香先生（京都大学医学部附属病院倫理支援部）を招聘した。対象は、本学の教員および大学院生の他、近隣の 4 病院にも案内を送付した。研修会当日の参加人数は、教員 44 名、大学院生 30 名（本学教員は除く）、学外病院関係者 5 名であった。研修会の内容は、講師の承諾を得て録画し、欠席者を対象とした 4 回の DVD 上映会を実施して受講の代替とした。研修会および DVD 上映会に出席した教員・大学院生計 93 名に受講証を発行した。

また、研究倫理研修会前には、倫理委員会委員より講師への質疑応答の時間を設け、講師の所属施設における倫理申請システムについてご教示いただいた。

(3) 研究倫理規程の一部改正について

事務局庶務係より「利益相反」についての審査を倫理委員会で行うべく研究倫理規程の一部を改正することの提案があり、その内容について審議した。

2. 次年度に向けた課題

次年度も、看護研究に求められる倫理的配慮の基本的知識に焦点をあて、研究倫理研修会を開催する。また、倫理申請、審査、そして審査結果の報告に至るまでのプロセスが円滑に進むよう、倫理審査申請に係る書類様式やフローチャートなどについて随時見直しを行い、改善の必要な点について検討していくことが課題である。

令和元年度 教務委員会活動総括

1. 委員会構成

委員：◎中島通子、○岡村典子、平澤則子、中村義実、大久保明子、河原畑尚美、
田口玲子、渡辺弘之、樺澤三奈子、高林知佳子、西田絵美
事務局：森田教務係長、山崎 潤主任

2. 活動概要

(1) シラバスに関する事項

シラバス記入要領の「評価方法、評価基準」におけるあいまいな表記や評価基準は、ほぼみられなくなった。「実務経験のある教員が担当します」を名前の欄に入れることとなった。①科目担当教員として助手も含めて名前を記載すること、②科目担当責任者に◎をつけることについては、ほぼ統一できた。オフィス・アワーの記載は学生委員会からの依頼もあり、記載されるようになった。今後の課題として、学生の学習にシラバスをさらに有効活用させ、学習効果を向上させるための取り組みが必要である。

(2) 時間割に関する事項

看護師課程、看護師・保健師課程、看護師・助産師課程を選択する学生があり、時間割表の枠組みを、必要な学年は課程別に表示できるよう運用し2年目となった。学内教員の科目は変更希望もあったが、それに伴う変更を各担当に交渉していただき承諾された科目もあった。1年の科目については特に前期は空きゴマがほとんどなく時間割作成は大変難しかった。単位数と時間数の調整を今年度の教務委員会では、カリキュラム改正に合わせて申請及び調整することと決定したため、時間数と単位数の調整と検討が必要である。

(3) 専門ゼミナールの実施に関する事項

① 看護研究フィールド調整

実習4病院については、「看護研究のフィールドについての実習病院側の意向とフィールド依頼をする際の留意点」について全指導教員に周知を図った。希望とりまとめは特に困難なく、円滑に進められた。しかし、実習4病院においては、看護管理者より希望する学生数が病院によって偏っていること、また部署の偏りによる調整困難を指摘されるなど、調整に困難を要した。また、実習4病院以外の施設においても、倫理審査を受ける条件が付加され、申請までの準備および承諾までの時間を要したことで、学生の研究開始が遅れるといった事案も生じた。さらに、研究対象の条件について施設側と調整に時間を要し、研究を文献研究に変更せざるを得ない学生もいた。今後、病院側との調整、倫理審査による時間超過をふまえると、研究フィールドとして病院を希望する場合は、早期のフィールド調整や研究計画書作成が必要となり、調整担当教員および学生の負担増が考えられる。こうした状況から、文献研究を選択せざるを得ないことが予想され、早期に専門ゼミナールの到達目標、および学習内容等を検討していく必要がある。

② 専門ゼミナール希望調査と振り分け

専門ゼミナール希望調査についてオリエンテーションを行った。昨年と同様にテーマに優先順位をつけ「第1希望」「第2希望」とし、振り分ける教員側が記述内容からその学生の配置領域を判断するのではなく、学生自らが書いた「希望する領域」を最大限尊重した。今年度の学生の第1希望の傾向としては、一部の領域や教員に集中し、領域によっては希望が非常に少ない状況だった。そのため、可能な限り、学生の第1・2希望を優先したうえで、各領域の割り当て人数に沿うように調整を行った。第1・2希望とも異なり、希望の少なかった領域に配置をせざるを得ない学生については、個別に面談を行い、了承を得た。尚次年度においては第3希望までを取ることを検討する。

(4) 看護研究発表会に関する事項

8月下旬から準備を開始し、運営要領に従って計画的に進めたところ、ポスター印刷については特に問題は生じなかった。看護研究発表会は、12月17日に行われ、1年生19名、2年生86名、3年生26名、4年生91名全員、院生9名、教職員42名、学外者19名の計292名の参加があった。このうち2年生には事前に教務委員が、3年生になると実習のために参加が難しくなるため、発表会に参加するよう伝えた結果、昨

年度に比べ2年生の参加率は向上した。しかし、まだ8名が不参加であったことから、次年度も引き続き2年生の参加を促していく必要がある。またアンケート結果からは、室温調整・換気が悪かった、4年生がポスターを取り囲み、外部から来た方が見づらかった、質疑応答が事前に準備されていたことがあからさまたった、事前に1~3年生にプログラムを配布してほしい、等の意見がみられ、次年度はこれらに対する注意や配慮をしていく必要がある。また昨年度に倣い、今年度もポスター掲示用テープを購入し好評を得たが、購入数が不足したことから、次年度は必要数を確認の上、購入する必要がある。発表会終了後に、委員からは、保護者に対しても開催案内を出したり、会場を体育館1か所にまとめて実施したりしたらどうかの意見が出され、これらについては今後メリット・デメリットを整理しながら検討していく必要がある。

(5) 教務ガイダンス・成績確認・実習先行要件の確認・各教育課程履修学生の確認

学年別に半期ごとに教務ガイダンスを行い、その学年での履修科目の特徴や学習上の留意点など学年に応じた学習指導を行った。特に、オフィス・アワーやシラバスの有効活用について強く推奨した。また、各学年に、ディプロマ・ポリシーの学年別到達目標の配布を行い、各学年における到達目標の意識づけを図った。前期および後期の成績確認を行い、教授会に諮った。さらに、2年次以降の看護学実習における先行要件となる科目の履修状況の確認を行い、教員及び学生に周知した。また、半期ごとのGPAが2.0未満の学生について、クラス担任に学習支援を依頼した。それ以外にも必要時、クラス担任や学生委員会と連携を図り、指導を行った。2年次基礎看護学実習Ⅱ以降の看護学実習の履修先行要件となる単位取得状況を正・副委員長で確認し、担当教員に周知するとともに学生にも掲示にて周知した。また、看護師課程、看護師・保健師課程、看護師・助産師課程の履修者名簿および卒業要件を確認し、教授会で報告するとともに学生にも掲示にて周知した。辞退期限までの辞退学生は0名であった。

(6) 学年暦作成

学生委員会、入試広報委員会、実習委員会等に各所掌事項の日程を確認するとともに、前期・後期の授業コマ数を確保できるよう配慮し、令和2年度学年暦を作成した。

(7) 非常勤講師の採用・ゲストスピーカー申請の確認

新規の非常勤講師について審議を行い、その結果を教育研究審議会に報告した。非常勤講師とは辞令交付を利用し、学生の学習状況について情報交換を行うとともに、看護学教育モデルコアカリキュラムの該当学習目標を説明し教育目標の共有に努めた。また、非常勤講師が試験監督を行えない場合は、教務委員と事務局が担当した。今年度より教務委員が担当できない場合は、他の教員にも協力を要請することとなったが、実際は教務委員と事務局で全て対応できた。ゲストスピーカーの申請においても、規程に見合った申請内容であるかを確認・検討し、その結果を教育研究審議会に報告した。しかしながら科目担当数とゲスト申請の割合についても1/3以内の時間数が条件となっているが、申請の条件や科目数からも検討が必要ではないかとの意見が出された。

(8) 学長からの委託事項：成績評価の疑義照会および異議申し立てに関する検討

1年間暫定的な方法として「成績疑義の申し立ての期間」を設け、検討を続けた。教学委員会の委員長・副委員長、教務委員会委員長、副委員長、事務局の5名により検討を行った。運営評議会、教授会を経て、成績評価はA-Eの評価について疑義申し立てとして取り扱う事として申し合わせ事項の作成と申請用紙と回答用紙を作成し便覧に掲載することが決定した。

(9) 学習成果に関する自己評価の実態調査

法人計画11

学生が看護専門職としての自己の成長と課題を明確化すること、および教育方法・内容の工夫と改善に資する基礎的資料を得ることを目的に、新カリキュラム適用学生362名を対象に、「学習の成果に関する自己評価表」を用いた質問紙調査を実施した。「学習の成果に関する自己評価表」は、ディプロマ・ポリシーに基づく学年別到達目標の達成度やカリキュラムの満足度を尋ねる多肢選択式・一部自由回答式質問紙であり、各学年別に作成されたものである。調査は年度末に実施され留置法により回答が回収された（回収率：1年次生81.4

%、2年次生 75.0%、3年次生 74.4%、4年次生 95.4%)。現在、データ分析を進めている。4年次生の単純集計結果では、学年別到達目標の到達度について約9割が「十分できる」「まあまあできる」と回答し、学習成果を高く評価する傾向にあった。カリキュラムに対する満足度については、約3割が「不満足」「どちらかといえば不満足」と回答しており、その理由としてゆとりのなさ、科目配置の偏りや順序の不適切さ等が挙げられた。

3. 次年度に向けた課題

(1) 新カリキュラム評価

看護学教育モデルコアカリキュラムの学修内容は本学カリキュラムでほぼ網羅していることを確認できしており、専門支持科目の学習順序性について非常勤講師からも意見が複数寄せられている状況であること、過密化した時間割を整理する必要性、時間数と単位数の統一等、指定規則改正に2022年に向け、継続的に検討していく必要がある。

(2) 時間割作成

1・2年次時間割において、各教員との調整が必要であり、担当委員の負担は大きい。そのため、担当委員がなかなか決まらない事態が毎年生じている。事務局にも入力ミス等のチェック機能を担っていただき、作成方法や体制について検討する時期に来ていると思われる。

(3) 学生に対するアンケート調査

次年度の課題は、カリキュラム改正に向け、学習成果に関する自己評価の実態調査で得られたデータを学年別に分析し、結果から教育方法・内容の改善点を検討することである。なおこの調査は、学生が経年的な自己評価に基づき成長と課題を明確化できるように、また大学としてカリキュラムを継続的に評価するために毎年度実施されることが必要であることから、データの蓄積と入力・集計作業の効率化を図るための電子フォーム入力システムを整備する必要がある。

1. 委員会構成

委員：◎石田和子、○河原畑尚美、岩永喜久子、大久保明子、川野英子、阿部正子、後田穰、
石岡幸恵
事務局：山崎潤一

2. 活動概要

(1) 臨床実習施設の選定、交渉及び調整に関する事項

① 実習懇談会（担当：河原畑、阿部、石岡）

令和元年5月29日（水）15:30～17:00、実習施設26施設73名、大学36名、計109名の出席により実施した。例年通り、臨床講師への委嘱状交付後、全体懇談、今年度の実習計画の説明を行った後、領域別看護学実習懇談を行った。また、今年度から導入された災害時における学生の安否確認について災害時看護支援特別委員会山田委員長より説明された。準備や後片付けは委員外の教職員の協力を得て円滑に進めることができたが、委嘱状交付については施設ならびに対象者数の増加に伴い予定に比べて延長した。委嘱状交付の対象施設が増えたことや、事務局との連絡調整の不備が原因であり、次年度の改善点である。

② 実習指導者研修会（担当：河原畑、阿部、石岡）

令和元年5月29日（水）14:00～15:10に「看護学実習指導論—研究成果を活用した学生の理解—」をテーマに、舟島教授よりご講演いただいた。実習施設19施設64名の参加があった。アンケートからは、非常によく実践に活用できる、また、指導者だけでなく、指導に関わるスタッフにも広く先生の講義を聞いてもらいたいとの意見があり、次年度は看護研究交流センターと共催でより多くの参加者を募り、6月4日（木）18:00～舟島教授の講演を企画した。

③ 領域別実習配置表（担当：大久保、河原畑）

令和元年度の3年次領域別実習配置は、4月中に調整し、5月の実習懇談会で学生名を入れない形での学生配置案を配布し、オリエンテーション時、学生に配布した。

令和2年度の実習配置については、オリンピックによる休日変更等があり、7月および9月開始は各領域の実習施設等の都合を考慮し、それぞれの希望に即した計画でローテーションを組んだ。7月から1月までの期間で、学生6グループで全領域が同様に実習を実施することは不可能であり、グループによって開始、終了の時期、インターバルの期間が異なることはやむを得ない状況を確認した。次年度は施設側、および他校との調整期間を踏まえ、6月には領域の希望調査を開始することが望ましいと考える。さらに新カリキュラム検討と合わせ、実習配置シミュレーションを検討していくことが課題となる。

④ 総合実習（担当：川野、後田、杉山）

昨年度と同様に総合実習は完全パッケージ化にて2週間の実習を6月17日～7月5日の間で実施した。学生の希望は特定の領域に集中したが、第3希望の範囲内にすべての学生を配置できた。また2020年度総合実習にむけた総合実習オリエンテーションは、2月4日（火）に実施し、希望調査票を2月17日（月）に締め切とし、各コース決定の掲示は3月9日に発表した。

⑤ 上越地域看護学実習連絡調整協議会（担当：石田、河原畑）

今年度は、当番校として、9月24日（火）に本学で開催した。出席者は学部長、実習委員長、副委員長、事務局次長、山崎主任、上越看護専門学校教員3名、水澤（県立中央病院）、佐藤（新潟労災病院）、山本（上越総合病院）、秋山（上越地域医療センター病院）、田村（さいがた医療センター）飯塚（上越地域振興局）であった。事前に上越看護専門学校との配置希望の調整を済ませ、各病院に配置希望を確認してもらっていたため、協議会では円滑に調整の確認ができた。調整後に生じる変更等は、実習施設の重複等がないように両校間で情報共有していくこととなった。また、訪問看護については、同日、別途協議会を開催した。ステーション管理者の参加者は1名であったが、学校間の調整とともに訪問ステーションにおける実習に対する意見交換ができた。

(2) 臨床実習の実施方法に関する事項

①実習オリエンテーション（担当：大久保、河原畑）

領域別オリエンテーションを令和元年6月14日（金）12：50～14：20に実施した。領域別実習配置表は、6月3日に実習掲示板に掲示、及び各教員に配布した。実習の概要と留意点、実習に係る倫理的配慮、看護技術到達度リストの使用法、各領域別の実習概要などを説明した。

その他、ふれあい実習、基礎看護学実習Ⅰにおいて、オリエンテーション時に、情報倫理に関する説明を実施した。

②技術到達度リスト（担当：川野、阿部）

1年次のふれあい実習オリエンテーション時に配布し、委員が活用方法と管理について説明した。領域別実習オリエンテーション時には、担当者が改めて記載の仕方と管理法について説明を行った。総合実習終了後に、全学生のリストを回収し、昨年度（2018）と今年度（2019）の4年生実習終了時の到達度の比較を行った。その結果、8割以上が到達目標に達した技術項目は、178項目中84項目であった。回収した技術到達度リストの返却は、1月8日（水）国試模試結果返却時に時間をいただき行き、今後の技術到達度リスト活用方法について伝えた。

(3) 臨床実習要項に関する事項

①実習要項（担当：石田、後田）

今年度は5月29日に開催された実習懇談会に合わせ、基礎看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護論の実習要項を各300部作成した。臨地実習の概要は2019年度入学生用として、「気象警報発令等の休講」と「実習期間中の災害発生時の安否確認報告」の項目を追加して300部作成した。

(4) その他

①継燈式（担当：大久保、岩永）

令和元年7月6日（土）13:00～14:00、新潟県立看護大学第1・2ホールにおいて2019年度継燈式を実施した。2年次生95名が中心になって挙行し、保護者180名（概数）、来賓・教職員17名が出席した。土曜日で晴天であり、大勢の保護者が出席された。一方、教員と来賓の参加が少なかった。来賓への案内状や教員への周知を早めに行うことが課題である。次年度も継燈式を実施する予定で1年生の実行委員13名が選出された。

②ユニフォーム（担当：岩永、後田）

昨年度の見積合わせの結果、今年までの2年間は(株)ことりやに依頼することとなり、6月5日（水）13～17時に多目的室（女子）、大会議室（男子）にて採寸を実施した。採寸日に合わせカーディガン、ナースシューズの注文も行った。学生への販売は9月26日（木）12時～12時40分に行った。2020年度からは、新たに見積合わせで決定した業者に依頼することになり、2019年度中に複数の業者に見積依頼を出したところ、一番安い業者として「吉崎商店」に決定した。

③実習物品購入（担当：石岡）

今年度は10万円の実習用物品購入費が配分された。委員会で優先購入の決まった感染症対応のためのディスポエプロンとアイガードを購入し、残りの金額を8病院1部門で分けた。主な物品はハンドソープ、ペーパータオル、サージカルマスク、ゴミ袋であった。

3. 次年度の課題

現カリキュラム上の実習についての課題の明確化とともに新カリキュラムにおける実習配置の検討（カリキュラム検討と並行して検討の必要がある）。

令和元年度 学生委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎大久保 明子、○酒井 禎子、堀江 正男、藤田 尚、原 等子、永吉 雅人、
エルダトン サイモン、小林 綾子、谷内田 潤子、東條 紀子、安達 寛人
事務局：亀井 宣幸、笠原 志寿子、(岡田 優佳)

2. 活動概要

(1) 学生自治会活動支援 (担当：酒井、小林、安達)

4/20 (土) 球技大会、6/6 (木) 自治会総会、11/3 (日) 桜蓮祭を実施。「麗和～華やかなはじまり～」をテーマとし、来場者は約 1012 名。高等教育コンソーシアムにいがた看護系大学タスクフォースの幹事校として、「リレー・フォー・ライフ・ジャパンにいがた」(9/21：新潟市)に参加するとともに、桜蓮祭やニューズレター (NSN 通信) で報告した。

(2) 学生との意見交換会 (担当：小林、安達、藤田、永吉)

令和 2 年 1/9 (木) に開催し、学生 27 名、教職員：31 名 が出席。学年別の課題や生活上のトラブルへの対処、大学への要望、オフィスアワーの活用などについて話し合い、議事の要約は、教職員に配布するとともに学生には掲示をして周知した。

(3) 学生生活実態調査 (担当：永吉、藤田、小林、安達)

9～10 月に調査を行い、集計結果を学内 HP に掲載するとともに、ポスター掲示や教授会での資料配布により、学生の生活指導や学習環境改善の資料として活用した。

(4) 学生の地域交流支援 (担当：エルダトン、酒井、藤田)

7/25 (木) の「高田祇園まつりの民謡流し」に学生・教職員 52 名が参加した。

(5) 学生のボランティア活動支援 (担当：エルダトン、酒井、藤田)

34 件のボランティア募集があり、掲示で周知した。参加学生の延べ人数は 146 名。4/17 (水) 上越市の協力要請を受け、ドイツパラリンピック柔道チーム交流会を開催した。

(6) 新入生オリエンテーション (担当：堀江、原、エルダトン、東條、谷内田)

4/12(金)～13(土)に学内・黒姫ライジングサンホテルで実施し、新入生 97 名、上級生 10 名、教職員 21 名が参加した。

(7) 教育環境の向上他 (担当：堀江、東條、大久保)

オフィスアワーの活用促進に向け、「研究室訪問 week」と「学生相談関係者会議」をそれぞれ年 2 回開催した。

(8) その他

各種奨学金を 236 名の学生が利用。成績不良者に対して担任より個別指導を行った。

成績優秀賞の 3 名、優秀課外活動賞の団体 2 件、個人 1 名の推薦を行った。今年度より、「福祉・介護・健康フェア」に新潟県立看護大学ブースを出展した。新潟県歯科保健協会による「おとなのデンタルヘルスサポート事業」を 2・3 次生対象に実施した。

3. 次年度に向けた課題

オフィスアワーの活用促進、学生相談・支援体制の充実、他大学の学生との交流を含む自治会活動支援の継続、情報倫理ガイドンスの見直し・強化が課題である。

1. 委員会構成

委員：◎舟島なをみ、○阿部正子、永吉雅人、井上智代、徐淑子
事務局：河野真実

2. 活動概要

(1) 教員の研究計画立案能力向上に向けた支援（Research Proposal Consultation 以下「R.P.C.」）について

R.P.C（Research Proposal Consultation）を通して教員が研究計画立案と洗練に向け個別指導を受ける機会を提供し、教員2名が指導を受けた。また、助教・助手を対象とした研究計画立案に関わる学習機会としてR.P.C（Research Proposal Consultation）CAFÉを開催し、12名の助教・助手が参加し、計画立案に関わる問題とその克服に関しコンサルテーターも交えたグループディスカッションを行い、参加者からは高い満足度を得られた。

(2) 科研費申請に関する説明会の開催について

2019年9月26日（木）に令和元年度科研費申請学内説明会を開催し、科学研究費の制度や制度の変更点に関する情報提供や科研費電子申請システムによる令和2年度応募書類の学内送信スケジュールについて事務局よりご説明いただいた。

(3) 研修会の開催について

①2019年8月7日（水）に助教・助手を対象とした研修会「R.P.C（Research Proposal Consultation）CAFÉ」を開催し、12名の助教・助手の参加があった。舟島委員長がファシリテーターを務め、研修会参加者からの質問に対し、自身の経験を交えながら質問に回答される等、参加者からは高い満足度を得られた。

②2020年3月10日（火）に千葉大学の中山登志子先生をお招きし、研修会「優れた研究計画書の作成 研究助成金獲得に向けて」を開催すべく準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、安全面を考慮し研修会を中止した。

(4) 学内共同研究助成について

①学内共同研究助成募集について

前年度に引き続き、学内共同研究助成に関する募集を行い、4件の応募があった。委員会にて審査を行い、委員会意見として学長へ報告し、応募のあった4件すべてに研究助成を行うことを決定した。

②平成30年度採択 学内共同研究助成成果報告について

- ・2019年11月20日（水）に平成30年度に採択された6件の学内共同研究に係る研究成果報告会を開催した。
- ・報告形式については、前年度同様、ポスターセッションによる報告会とし約40名の教職員の参加があり、活発なディスカッションが展開された。なお、令和2年度においては、発表形式の変更を検討する予定としている。
- ・研究成果報告書については、別に様式を定め、2020年3月19日（木）までに全ての研究代表者からの提出が確認された。

(5) 研究活動の活性化に資する本学図書館蔵書の展示について

①図書委員会との合同企画「研究活動のためのおすすめ資料展示」を令和元年8月1日から10月19日までの期間、実施した。

②研究計画の立て方、研究計画書の書き方などの書籍 34 点を展示し、期間中に 38 件の貸し出しがあり、また利用者からは好評だったため、次年度以降も定例開催することを確認・決定した。

(6) 研究活動活性化に向けたニーズ調査について

- ①研究活動を推進するための具体的な支援を検討するため、本学における研究環境の把握及び研究を阻害する要因と支援ニーズを明らかにするため、本学の教員を対象にアンケート調査を実施した。
- ②今年度、アンケート調査結果の集計及びデータ入力までを行い、次年度に具体的支援策の検討を行った上で実施する予定としている。

(7) 科学研究費の新規申請件数及び採択件数について

区 分	H31 申請件数	H31 採択件数	R02 申請件数
基盤研究 (S)	0	0	0
基盤研究 (A)	0	0	0
基盤研究 (B)	2	1	2
基盤研究 (C)	17	4	13
挑戦的研究 (開拓)		0	1
挑戦的研究 (萌芽)	3	0	2
若手研究	7	0	8
合 計	29	5	26

1. 委員会構成

委員：◎高柳智子、○徐淑子、小野幸子、阿部正子、石原千晶
事務局：宮崎達也

2. 活動概要

(1) 教員の教育評価及び教育能力の開発に関する事項

① 学生による授業評価アンケート調査

授業評価アンケートの実施率は、前期後期ともに100%であった。集計結果は、本学ホームページ「学内専用」に以下の構成で公開した。

ア. 授業評価アンケート実施科目（教員数・科目数・履修者数・回答者数）

イ. 全体集計結果（ホームページ公開の全体集計結果は別紙に示す） 法人計画評価指標である授業満足度は、前期科目：講義・演習科目 4.6 ± 0.6 、実習科目 4.8 ± 0.4 であり、後期・通年科目：講義・演習科目 4.6 ± 0.6 、実習科目 4.8 ± 0.5 であった。よって、前期・後期ともに法人計画評価指標目標値(4.2)を満たしていた。

② 研修会開催

本学教員がこれまでの教育活動を振り返り、教育に関する悩みや課題を共有・検討・共同解決することを通して、教員組織（ファカルティ）＝チームとして教育力を高めることを目的に、新潟大学教育・学生支援機構の上畠洋佑准教授を講師にお招きし、8月26日(月)16時30分～18時、大会議室にて『チームとして教育力を高める』というテーマで研修会を実施した。参加者は33名であった。レクチャーとワークショップの2部構成とした、同職位によるグループ編成としたワークショップでは活発な意見交換が行われ、終了後には、互いの困難感を共有できたことで、悩んでいるのは自分だけではないことに気づけた等の感想が聞かれ、有用な研修会となった。

③ FD通信の発行

「学生による授業評価アンケート」で高い授業満足度を得ている授業の分析結果報告、FD研修会の内容を中心にFD通信第3号を発行した。教職員・学生への配布、機関リポジトリ・学内ホームページに公開した。また、FD通信既刊分を後援会にて配布し、本学における授業改善の組織的取り組みについて、学生保護者とも情報共有を図った。

④ 授業検討会や教員相互の授業参観、教員相互の授業評価などの取組について検討

〈試行的授業検討会の実施〉

- ・実施時期と科目：令和元年12月12日(木)2年次 老年看護学Ⅱ「高齢者の終末期における看護」（授業担当者：小野教授）
- ・参観教員：事前申込教員2名及びFD委員2名の計4名

〈授業参観後の協議会開催〉

- ・実施日時：令和元年12月20日(金)11～12時
- ・参加者：授業担当者及び授業参観教員4名の計5名
- ・協議の進め方：自由討議(当初、グループ別に模造紙と付箋を用いて意見をまとめ、全体発表及び討議の予定であったが、参加人数が少なかつたため全体での自由討議とした)
- ・協議内容：授業担当者から、授業で工夫した点及び学生の授業評価結果やリアクションペーパーの概要について説明があり、参加者より肯定的評価及び学生の立場からの授業の進め方に関する改善点の提案を行った。

3. 次年度の課題

(1) 授業評価アンケート経費および回収方法

今年度より、実習科目用の授業評価アンケートを導入するとともに、集計結果を平均値±標準偏差での提示としたため、アンケート集計に係る時間数が増加し、集計作業経費が予算額を上回った。次年度は新方式での2年目になるため、今年度よりも作業を効率化できる見込みではあるが、2年間の執行状況をみ

て今後の予算計上を見直す必要がある。加えて、学生との意見交換会で得られた意見をもとに、アンケートの回収期間の延長(配布後3日間)を行ったため、それに伴う回収率や評価の変化についても確認していく。また、全科目において授業評価アンケートを実施できたが、実習科目用の授業評価アンケートを誤って講義科目に配布した事例が2科目あった。誤配布が発生しないよう、工夫を検討していく。

(2) 授業検討会の導入

授業検討会担当委員を2名に増員する予定である。今年度の試行をもとに、次年度は前期・後期で企画し、継続的な実施を目指す。

講義・演習科目 授業評価アンケート

<評価項目>

【授業の構成・内容】

1. シラバスには、学習目標、授業に関する内容、成績評価基準が具体的に示されていた
2. シラバスは自身の習得目標を設定することにつながった
3. 科目の構成(内容・時間配分・順序)は適切であった
4. 授業で用いられた教材は適切であった
5. 授業の内容や構成は、学生が理解しやすいように工夫されていた
6. 学生からの質問・発言などに適切に対応していた
7. 教員は授業を受けやすい環境づくりに配慮していた

【自己評価】

8. 履修登録する前に、シラバスを参考にした
9. 遅刻・欠席をしないように心掛けた
10. 学習目標を達成するために自主的に学習した(予習・復習など)
11. 授業に積極的に取り組んだ(課題提出・受講態度など)

【総合評価】

12. 授業により知的に刺激され、さらに学習を深めたくなった
13. 総合的に見て、この授業に満足した

実習科目 授業評価アンケート

※1年次ふれあい実習については、実習内容に合わせて以下の読み替えを行った。

項目3「オリエンテーション」→「事前学習会」

項目4「援助」→「活動」

項目7・8「教員や看護師」→「教員」

項目9「看護師」→「現地スタッフ」

項目10「患者やスタッフ」→「地域住民や現地スタッフ」

【実習内容・方法】

1. 目的目標、学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった
2. 実習要項には、目標、授業に関する内容、成績評価基準が具体的に示されていた
3. オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った
4. 学習目標としていた援助を、対象に行うことができた
5. 教員が授業時間をむやみに早めることや、終了時間を延長・短縮することはなかった。
6. 実習中の記録物・提出物などの量は適切であった

【指導方法】

7. 教員や看護師は、学生の質問にわかりやすく答えていた
8. 教員や看護師が学生に期待する行動は、難しすぎることも優しすぎることもなかった
9. 教員と看護師の連携がよくとれていた
10. 教員は、学生が患者やスタッフとうまく関わられるように配慮していた

<評価基準>※講義・演習用、実習用ともに同様

- 1 そう思わない 2 どちらかといえばそう思わない 3 どちらともいえない
4 どちらかといえばそう思う 5 そう思う

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果報告(前期 講義・演習)														
1. 授業評価アンケート実施教員数・実施科目数														
教員数	科目数	履修者数(延べ)	回答者数(延べ)											
70	58	4,321	4,184											
2. 全体集計結果														
〈評価基準〉 1. そう思わない 2. どちらかといえばそう思わない 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思う 5. そう思う														
項目 学年	授業内容								学生自己評価				総合評価	
	学習目標	構成適切	評価基準	教材	内容工夫	適切対応	環境づくり	シラバスを参考	遅刻欠席	自主的	積極的	知的刺激	満足	
1学年	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.9 ± 0.5	4.5 ± 0.8	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.7	
2学年	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	
3学年	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	
4学年	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.5 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.7	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.9 ± 0.5	4.8 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	
大学全体	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	
項目 学年	授業内容								学生自己評価				総合評価	
	学習目標	構成適切	評価基準	教材	内容工夫	適切対応	環境づくり	シラバスを参考	遅刻欠席	自主的	積極的	知的刺激	満足	
基礎科目	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.9 ± 0.4	4.6 ± 0.8	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7	
専門支持科目	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.8	4.8 ± 0.6	4.5 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.8	4.6 ± 0.8	
専門科目	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.7	4.5 ± 0.6	4.4 ± 0.7	4.6 ± 0.6	4.5 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.9 ± 0.5	4.7 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	
大学全体	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	

令和元年度前期 授業科目別集計														
項目 科目群	授業内容								学生自己評価				総合評価	
	学習目標	構成適切	評価基準	教材	内容工夫	適切対応	環境づくり	シラバスを参考	遅刻欠席	自主的	積極的	知的刺激	満足	
人間と文化	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.9 ± 0.3	4.6 ± 0.8	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	
人間と自然														
英語	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.9 ± 0.4	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	
健康スポーツ学	4.6 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.9	4.6 ± 0.8	4.5 ± 0.9	4.4 ± 0.9	4.5 ± 0.9	4.6 ± 0.8	4.8 ± 0.5	4.2 ± 1.0	4.7 ± 0.6	4.3 ± 0.9	4.4 ± 1.0	
総合														
人間と社会	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.7	4.5 ± 0.7	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.4 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.6	
人間と情報														
人間のからだと健康	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.6 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	
基礎看護学	4.8 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.8	4.6 ± 0.8	4.9 ± 0.5	4.4 ± 0.8	4.8 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	
母性看護学	4.8 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.8	4.6 ± 0.8	4.9 ± 0.5	4.4 ± 0.8	4.8 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	
小児看護学	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.7	4.9 ± 0.4	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.4	
成人看護学	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.9 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	
老年看護学	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.4 ± 0.9	4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.9	4.5 ± 0.8	4.6 ± 0.8	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.7	
精神看護学	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.6	4.5 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.8	4.9 ± 0.4	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	
地域看護学	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.8 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.7	4.8 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	
助産学														
看護の統合	4.9 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.5 ± 0.8	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	
看護の探求	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.8	4.8 ± 0.6	4.4 ± 1.1	5.0 ± 0.1	4.9 ± 0.2	4.9 ± 0.3	4.6 ± 1.0	4.6 ± 0.8	
大学全体	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	

令和元年度 学生による授業評価アンケート結果報告(前期 実習)

1. 授業評価アンケート実施教員数・実施科目数

教員数	科目数	履修者数(延べ)	回答者数(延べ)
37	3	269	245

2. 全体集計結果

(評価基準) 1. そう思わない 2. どちらかといえばそう思わない 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思う 5. そう思う

項目 学年	実習内容・方法					指導方法				自己評価		
	学習目標	評価基準が明確	オリエンテーションが役立った	学習目標	授業時間	提出物の量	質問に答えていた	学生に期待する行動	教員と看護師の連携	教員は配慮していた	積極的に取り組んだ	満足
1学年												
2学年	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.4
3学年												
4学年	4.8 ± 0.3	4.7 ± 0.4	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.8	4.7 ± 0.7	4.9 ± 0.2	4.8 ± 0.4
大学全体	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.9 ± 0.3	4.8 ± 0.4

項目 学年	実習内容・方法					指導方法				自己評価		
	学習目標	評価基準が明確	オリエンテーションが役立った	学習目標	授業時間	提出物の量	質問に答えていた	学生に期待する行動	教員と看護師の連携	教員は配慮していた	積極的に取り組んだ	満足
基礎科目												
専門支持科目												
専門科目	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.9 ± 0.3	4.8 ± 0.4
大学全体	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.9 ± 0.3	4.8 ± 0.4

令和元年度学生による授業評価アンケート結果報告(後期・通年 講義・演習)

1. 授業評価アンケート実施教員数・実施科目数

教員数	科目数	履修者数	回答者数
60	52	3,739	2,415

2. 全体集計結果

<評価基準> 1. そう思わない 2. どちらかといえばそう思わない 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思う 5. そう思う

項目 学年	授業内容							学生自己評価				総合評価	
	学習目標	構成適切	評価基準	教材	内容工夫	適切対応	環境づくり	シラバスを参考	遅刻欠席	自主的	積極的	知的刺激	満足
1学年	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.8	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6
2学年	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.5 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.7	4.6 ± 0.7
3学年	4.7 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.5	4.6 ± 0.5	4.5 ± 0.6	4.7 ± 0.4	4.6 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.3	4.6 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.5 ± 0.6	4.5 ± 0.6
4学年	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.6	4.9 ± 0.5	4.5 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6
大学全体平均	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6

項目 学年	授業内容							学生自己評価				総合評価	
	学習目標	構成適切	評価基準	教材	内容工夫	適切対応	環境づくり	シラバスを参考	遅刻欠席	自主的	積極的	知的刺激	満足
基礎科目	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.9	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5
専門支持科目	4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.9	4.4 ± 0.9	4.4 ± 0.9	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.4 ± 0.9	4.6 ± 0.7	4.4 ± 0.9	4.4 ± 0.8
専門科目	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.6 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6
大学全体平均	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6

項目 科目群	授業内容							学生自己評価				総合評価	
	学習目標	構成適切	評価基準	教材	内容工夫	適切対応	環境づくり	シラバスを参考	遅刻欠席	自主的	積極的	知的刺激	満足
人間と文化	4.9 ± 0.3	4.9 ± 0.3	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.9 ± 0.5	4.9 ± 0.4	4.8 ± 0.4	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5
人間と自然	4.9 ± 0.3	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.9 ± 0.3	4.7 ± 0.6	5.0 ± 0.0	4.6 ± 0.8	4.2 ± 1.3	4.8 ± 0.6	4.9 ± 0.3	4.8 ± 0.6
英語	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5
健康スポーツ	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.8	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.6	4.5 ± 0.9	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7
総合	4.7 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.3	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.5	4.5 ± 0.7	4.7 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.4
人間と社会	4.5 ± 0.7	4.4 ± 0.8	4.3 ± 0.9	4.2 ± 1.0	4.2 ± 1.0	4.2 ± 0.9	4.4 ± 0.9	4.5 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.2 ± 1.1	4.5 ± 0.8	4.2 ± 1.0	4.3 ± 0.9
人間と情報													
人間のからだと健康	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.8	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7
基礎看護	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.9 ± 0.4	4.7 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7
母性看護学	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.9 ± 0.3	4.8 ± 0.5	4.9 ± 0.4	4.8 ± 0.4	4.8 ± 0.4
小児看護学	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.6 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5
成人看護学	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.8	4.6 ± 0.8	4.6 ± 0.8	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.5	4.5 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7
老年看護学	4.6 ± 0.9	4.4 ± 0.9	4.1 ± 1.2	4.2 ± 1.1	4.1 ± 1.1	4.4 ± 1.0	4.4 ± 0.9	4.6 ± 0.8	4.7 ± 0.7	4.5 ± 0.8	4.6 ± 0.7	4.4 ± 0.9	4.4 ± 0.9
精神看護学	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.6 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.6 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.6
地域看護学	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.4 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.7	4.6 ± 0.6	4.5 ± 0.7	4.5 ± 0.7
看護の統合	4.8 ± 0.5	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.5 ± 0.8	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.9	4.9 ± 0.4	4.4 ± 0.9	4.6 ± 0.6	4.5 ± 0.9	4.5 ± 0.8
看護の探求	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.6	4.9 ± 0.4	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6
公衆衛生看護学	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.7
助産学													
大学全体	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.6	4.6 ± 0.6

令和元年度学生による授業評価アンケート結果報告(後期・通年 実習)

1. 授業評価アンケート実施教員数・実施科目数

教員数	科目数	履修者数	回答者数
43	9	748	611

2. 全体集計結果

<評価基準> 1. そう思わない 2. どちらかといえばそう思わない 3. どちらともいえない 4. どちらかといえばそう思う 5. そう思う

項目 学年	授業内容						学生自己評価				総合評価	
	学習目標	評価基準が明確	オリエンテーションが役立った	学習目標	授業時間	提出物の量	質問に答えていた	学生に期待する行動	教員と看護師の連携	教員は配慮していた	積極的に取り組んだ	満足
1学年	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.5 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5
2学年												
3学年	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.4	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.6 ± 0.5	4.7 ± 0.6	4.9 ± 0.4	4.8 ± 0.4
4学年												
大学全体平均	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5

項目 学年	授業内容						学生自己評価				総合評価	
	学習目標	評価基準が明確	オリエンテーションが役立った	学習目標	授業時間	提出物の量	質問に答えていた	学生に期待する行動	教員と看護師の連携	教員は配慮していた	積極的に取り組んだ	満足
基礎科目	4.6 ± 0.8	4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.8	4.6 ± 0.7	4.5 ± 0.9	4.6 ± 0.7	4.6 ± 0.8	4.7 ± 0.7	4.3 ± 0.9	4.4 ± 0.8	4.8 ± 0.6	4.7 ± 0.6
専門支持科目												
専門科目	4.6 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.5 ± 0.6	4.6 ± 0.6	4.4 ± 0.5	4.7 ± 0.5	4.4 ± 0.6	4.4 ± 0.6	4.2 ± 0.6	4.3 ± 0.6	4.9 ± 0.3	4.7 ± 0.5
大学全体平均	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.7	4.7 ± 0.6	4.7 ± 0.6	4.6 ± 0.8	4.7 ± 0.6	4.8 ± 0.5	4.8 ± 0.5

令和元年度 国家試験対策就職委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎田口玲子（委員長），○井上智代（副委員長），原等子，酒井禎子，
阿部正子，石原千晶，山岸美奈子，川島良子，前川絵里子
事務局：岡田優佳（～8月），笠原志寿子（9月～）

2. 活動概要

(1) 国家試験対策の企画および実施について

① 国家試験対策講義

看護師・保健師国家試験の受験対応として、7月～11月にかけて国家試験対策講義を23回実施した。昨年度の学生へのアンケート結果を踏まえ、また、学生の不得手領域や保健師国家試験科目のさらなる充実を図り、科目構成を見直して実施した。学生からの反応は概ね好評だった。助産師に対しては学生の学習状況をみて個別に指導した。学生への国家試験対策指導の充実のための教員セミナーを、今年も実施した。

② 国家試験模擬試験のサポート

業者模試および委員会作成の模試を、看護師は計8回、保健師は計4回、助産師は計3回実施した。今年はいずれも複数の業者によるものを取り入れた。模試の結果は、ゼミ担当教員および国家試験対策委員会で継続的にフォローし、特に気がかりな学生については、注意深くフォローした。

③ 国家試験激励会および国家試験受験状況及び結果

		受験者数	合格者数	合格率	全国合格率 (新卒のみ)	全国合格率 (既卒含む)
看	新卒	90名	90名	100.0%	94.7%	89.2%
保	新卒	84名	81名	96.4%	96.3%	91.5%
助	新卒	4名	4名	100.0%	99.5%	99.4%

(2) 進路指導について

学生がキャリア形成の意義を理解し自らの進路が決定できるように、進路ガイダンスを4回計画した（そのうち4年生向けのものは、新型コロナウイルス対策のため中止を余儀なくされた）。今年度はターゲットとする学年を明確にした上で、1年生向けには将来のキャリアと人生、学修コース選択の準備を（11月）、2年生には「適切な職場探しのコツ」を説明、外部の就職説明会などの情報提供も行った（12月）。3年生には「就職活動の基礎知識」として具体的な助言を行った（1月）。1年生向けのガイダンスには就職の決定した4年生が、2年生向けのガイダンスには看護師、保健師、助産師、養護教諭、大学院生としてすでに活躍している卒業生が、3年生向けのガイダンスには4年生の有志が就職活動の相談のため、それぞれ関わり、活発な意見交換が行われた。4年生向けには、看護師・助産師・保健師として働く卒業1年目の卒業生からの助言をいただくことを計画した（3月→中止）。

今年度の進路状況は、県内就職者は50.6%（昨年度：52.4%）、新潟県出身者の県内就職率は61.1%（昨年度：68.3%）であった。

(3) 求人訪問対応と進路情報の提供

36件の求人訪問に対する対応を行った（前年度より6件減少）。就職情報コーナー、Vドライブの求人施設情報などにおける情報提供を周知した。

(4) 進路状況調査

進路ガイダンス、国家試験手続き、ゼミを通じて学生に周知した。

3. 次年度に向けた課題

- 国家試験対策のボトムアップ，保健師国試受験へのモチベーション，気がかりな学生への対応方法，受験間近になってからの成績低下者への対策を，引き続き検討。
- 学生へのキャリアガイダンスの周知と参加の促しの工夫。在学生（先輩）や県内で活躍する看護職卒業生の活用の継続。
- 新型コロナウイルス，東京オリンピック（予定），就職戦線の早まりに対する，就職活動への影響を考慮した対応の検討。

令和元年度 入試・広報委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎中村 義実、○堀江 正男、○山田 正実、川野 英子、西田 絵美、
 エルダトン サイモン、後田 穰、石岡 幸恵、東條 紀子、大倉 由貴
 事務局：森田 裕美、星野 史、山崎 明彦（敬称略）

2. 活動概要

(1) 入試実施本部会議に関する事項

①令和2年度入学試験の実施

推薦・社会人入学試験（11/16）、一般入学試験〔前期日程（2/25）、後期日（3/12）〕を実施した。総計100名が選抜され、81名が入学手続きを行った。推薦入試の志願倍率は1.54倍（実質倍率1.54倍）、一般入試の志願倍率は4.05倍（実質倍率2.40倍）だった。前年度、前々年度を含めた詳細は下表参照。

推薦入試、及び一般入試従事者のための学内説明会（推薦10/30、一般2/12）、入試実施本部会議における合否判定（推薦11/27、前期3/2、後期3/19）、合格発表（推薦11/29、前期3/5、後期3/20）を実施した。

その他、科目等履修生入学試験、聴講生選考の概要の提案を行った。

令和2年度入試実績（令和2年3月31日確定値）

R2(上段) H31(中段) H30(下段)	募集人員 (人)	志願者数 (人)	志願倍率 (倍)	受験者数 (人)	受験率 (%)	受験倍率 (倍)	合格者数 (人)	実質倍率 (倍)	入学者数 (予定) (人)
							括弧内は 辞退者数		括弧内は追加 合格者数
推薦入試	35	54	1.54	54	100	1.54	35	1.54	35
	35	74	2.11	74	100	2.11	36	2.06	36
	35	51	1.46	51	100	1.46	35	1.46	35
社会人入試	若干名	1		1	100		0		0
	若干名	2		2	100		2		2
	若干名	3		3	100		1 (1)		0
一般入試(前)	50	133	2.66	128	96.2	2.56	51 (6)	2.51	45
	50	99	1.98	95	96.0	1.90	53 (4)	1.79	49
	50	94	1.88	89	94.7	1.78	53 (7)	1.68	46
一般入試(後)	10	110	11.0	28	25.5	2.80	14 (1)	2.00	13
	10	144	14.4	53	36.8	5.30	10 (0)	5.30	10
	10	102	10.2	25	24.5	2.50	15 (2)	1.67	13
一般入試(計)	60	243	4.05	156	64.2	2.60	65 (7)	2.40	58
	60	243	4.05	148	60.9	2.47	63 (4)	2.35	59
	60	196	3.27	114	58.2	1.90	68 (9)	1.68	59
総計	95	298	3.14	211	70.8	2.22	100 (7)	2.11	94 (1)※
	95	319	3.36	224	70.2	2.36	101 (4)	2.22	97
	95	250	2.63	168	67.2	1.77	104 (10)	1.62	95 (1)

※前期日程辞退者6名のうち1名は3月31日に辞退したため、欠員が1名生じた。

(2) 大学入試センター試験の実施に関する事項

大学入試センター試験（1/18、1/19）を実施した。2回の大学入試センター試験入試担当者連絡協議会（8/19、8/23、12/2）に参加し、試験従事者説明会およびリスニング説明会（12/25）を実施した。

(3) 入試問題の作成、管理、実施に関する事項

昨年度作成した「入学者選抜におけるミス防止マニュアル」に基づいて各入学試験を実施した。チェック体制を強化し、ミス防止に万全を尽くした。

大学入試センター試験に関しては、問題の受け取り、仕分け、保管などを厳正な管理のもとに行い、全ての業務に関して厳正かつ適正に行った。

いずれの試験においても、大きなトラブルが発生することなく無事に終了した。

(4) 学生募集に関する事項

①オープンキャンパス、出前講義、大学説明会、学内見学について

オープンキャンパスは、8月の3回（8/4、8/5、8/19）に加え、11月の桜蓮祭同日（11/3）に行った。8月の参加者合計は623名（うち保護者249名）、11月は48名（本人・保護者の内訳は不明）だった。

出前講義は、大学ホームページを通して申し込みを行うシステムを始動した。22教員による36講義の登録があり、年度を通して延べ16回の講義が実施された。

外部における大学説明会には8回の参加（資料参加を含めると27回）、学内見学の受入れは13回行った。

②高校訪問について

高校訪問を実施した。実施マニュアルを作成し、対象校（上越地区の高校、過去5年間に入学者数3人以上の高校、医療専攻のある高校等）を定めた。年度を通して、27校を訪問し、本学PR、ならびに高大連携の強化を図った。

③広報誌の作成

大学案内（キャンパスガイド）を作成し6月に発行した。広報誌（ポルティコの広場）2号分（第35号/7月、第36号/1月）を発行した。

④大学のホームページに関する事項

入試関連の情報を随時更新するなど、大学ホームページの管理及び運営を行った。

⑤予算

入試・広報委員会予算より、iPadの購入等、90,650円を執行した。

3. 次年度に向けた課題

令和2年度一般入試は、前後期をあわせての志願者数が前年度と同数（243名）を保ち、前期は前年度比34名増の133名と健闘した。主要因は、新潟県外からの志願者増（前期・前年度比+29名）である。逆に言えば、県内勢に伸び悩みが見られ、推薦入試の志願者数は前年度比20名減の54名に落ち込んだ。次年度は、県外勢の勢いを維持・拡大するとともに、県内勢の勢いの力強い回復に向けての努力が必要になる。新入生アンケート等を利用し、志願者の要望や動向を的確に把握した上で、オープンキャンパス等の要所で、効果的な入試・広報戦略を展開していくことが求められる。

4. その他

特になし

1. 委員会構成

委員：◎境原三津夫、○舟島なをみ、渡辺弘之、石原千晶、野口裕子、杉山泰子
事務局：亀井宣幸、飯田孝枝

2. 活動概要

(1) 管理運営

- ① 図書館費 13,131 千円
- ② 入館者数、貸出冊数、文献依頼件数などの利用統計を月別にまとめ分析した。
- ③ 各種協議会・研修会等への参加
 - ・ 公立大学協会図書館協議会第1回大学図書館研究編集委員会（亀井係長）
 - ・ 公立大学協会図書館協議会第2回大学図書館研究編集委員会（飯田職員）
 - ・ 新潟県大学図書館協議会総会（亀井係長、飯田職員）
 - ・ 新潟県大学図書館協議会研修会（飯田職員）
 - ・ 公立大学協会図書館協議会関東・甲信越地区館会議（飯田職員）
 - ・ 機関リポジトリ新任担当者研修（飯田職員）
- ④ 上越教育大学附属図書館と共同で蔵書交換展示会を実施した。
期間：第1回5月18日～6月26日
交換展示図書は100冊。
- ⑤ 蔵書点検
図書館2月18日～2月26日、研究室1月10日～31日に実施した。

(2) 図書館のちからプロジェクト

図書館の利用促進を図るプロジェクトとして以下の活動を行った。

- ① 新入生図書紹介（4月24日）
1回実施し、8名の参加があった。
- ② ブックハンティング（10月15.16日）
学部生10名が自ら書店で選書を行った。49冊全てを購入し、学生作成のPOPを付けて館内展示した。
- ③ 次年度実施にむけて、「学生による本学図書館に所蔵されている書籍紹介」を計画した。
- ④ BOOKセラピー
10月28日～11月22日に実施した。10月31日付の上越タイムスに記事が掲載された。

(3) 広報活動

「新潟県立看護大学図書館 Library Newsletter」No.43を9月に発行した。大学配布先は、大学役員・県内大学図書館・病院を中心に、73箇所であった。

(4) 図書館ホームページ

教員推薦図書「おすすめの一冊」について、学内教員に依頼して実施した。

(5) 図書購入

- ① 教員選書図書及び推薦図書
予算1,630,000円で選書図書及び推薦図書を募った。結果、図書178冊の推薦があり、全てを購入した。
- ② 学生リクエスト図書
2名の学生より18冊のリクエストがあり、14冊を購入した。

(6) 雑誌購入

購読雑誌の継続購入について審議し、継続を決定した。購読雑誌の利用状況については、通年にて調査を実施した。

(7) 蔵書の更新・除籍に関すること

- ① 寄贈図書（2月末現在）：図書168冊，視聴覚0巻
- ② 除籍：図書753冊，視聴覚0巻

(8) その他

① 研究推進委員会との合同企画展示

図書の展示あるいは蔵書紹介をとおして、研究計画策定、ことに科研費調書作成に資する情報の共有や、意欲の喚起を図るため、8月1日～10月19日まで研究推進委員会との合同企画展示を行った。

② 認知症を知ろう！世界アルツハイマーデー

「認知症の人と家族の会」との共催で「認知症を知ろう！世界アルツハイマーデー」の展示を9月2日～30日に実施した。9月20日付の新潟日報に記事が掲載された。

3. 次年度に向けた課題

- ・新規購入図書のスペースを確保するため、古い雑誌、古い図書の除籍をさらに進める。
- ・図書館のちからプロジェクトは今後も継続する。

1. 委員会構成

委員：◎岩永 喜久子、○山田 正実、川野 英子、Elderton Simon、小林 綾子
事務局：亀井 宣幸、飯田 孝枝

2. 活動概要

(1) 新潟県立看護大学紀要第9巻発行

新潟県立看護大学紀要第9巻を発行するにあたり、年間計画のもと、ホームページや大学院ガイダンス、事前届出書を活用するなどして投稿を呼びかけた。3編の論文投稿があり、編集委員会で査読者の意見を踏まえて採否を検討し、2編の論文（報告と資料）の掲載を決定した。発行形態が電子ジャーナルであるため、リポジトリに登録し令和2年3月9日に一般公開した。

(2) 新潟県立看護大学紀要規程ならびに投稿要項の改正

投稿者数を増やす目的で、新潟県立看護大学紀要規程の投稿資格について検討すると共に、同紀要投稿要項を見直し、付随した資料を新たに作成して規程と要項を改正した。具体的な見直しは、投稿資格、図表の記載方法、著者資格の論文への記載、投稿チェックリストの項目追加、及び投稿承諾書・著作権委譲承諾書の作成であり、次年度の第10巻より全項目を適用することとした。

(3) 予算の執行状況について

令和元年度の予算額150,400円の執行額は63,988円であった。

(4) その他

令和元年の1月から12月期間の本学紀要第1巻から第8巻までの閲覧・ダウンロードの総数は37,186件であった。

3. 次年度に向けた課題

新潟県立看護大学紀要第10巻を発刊する予定である。課題は、投稿者数を増やすことである。そこで、事前投稿届出書の提出と投稿資格を踏まえた関係者からの呼びかけの依頼とともに、新年度の大学院ガイダンスにおいても大学院博士前期課程と後期課程の学生へ投稿について説明する予定である。

令和元年度 教学委員会活動報告

1. 委員会構成

委員：◎石田和子 ○平澤典子、舟島なをみ、長谷川雅美、小野幸子、岩永喜久子、高柳智子、中島通子、岡村典子
事務局：森田教務係長， 亀井図書学生係長

2. 活動概要

(1) 年間活動計画

令和元年度大学院の教務運営に関して研究科委員会と連動した年間活動計画を立て活動した。令和元年度の教学委員会内の役割分担を検討した。以下のとおり決定した。

役 割	担 当
教育環境整備	舟島教授， 石田委員長
論文発表会	平澤教授， 岡村准教授
学生便覧	石田委員長， 岩永教授
シラバス	高柳教授、小野教授、石田委員長
時間割	中島教授， 舟島教授
論文データの保存の取り扱い検討WG	石田委員長， 舟島教授， 岩永教授
成績疑義の対応検討WG	石田委員長， 平澤教授

(2) 教育環境整備

① 大学院生室の移転

教育棟3階の大学院生室から教育棟2階図書館の上へ引っ越しをした。部屋はパーテーションで博士後期課程と前期課程が仕切られており明るく広い環境へと移行した。移行に伴い、必要な物品を大学院の予算で購入した。

② 大学院生との意見交換会

博士後期課程の学生との意見交換会を令和元年12月10日（火）文献検索の講義の後に1時間程度、学長、研究科長、教学委員長と学生6人で行った。大学院博士後期課程の学生の悩みなどであった。博士前期課程の学生との意見交換は修士生6人と学長、研究科長、大学院長と修士論文発表会の後に行った。大学院就学上の問題点が明確になった。

(3) 論文発表会

① 学位論文審査

学位論文提出6名であり（4名は研究コース、2名はCNSコース）論文審査委員会を組織して論文審査・口頭試問を行った。結果、全員合格と認定され修了要件を確認して研究科委員会の審議を経て全員修了の運びとなった。

② 学位論文発表会の開催

学位論文発表会は令和2年3月6日に行われた。今年度は新型コロナウイルス（Covid-19）感染拡大を予防するために教職員、発表予定大学院生のみでの出席とし、さらに発表時間の縮小し行った。

③ 学生便覧

老年看護学CNSコース38単位移行および博士後期課程等の開設により学生便覧が不明な点があることから学生便覧ワーキングを立ち上げ、石田委員長、岩永教授、事務局森田教務係長により教学委員会教授の協力を経て変更をした。

主な変更点は、老年看護学CNS26単位から38単位の伴うこと・CNSコース、基盤看護分野に「看護教育学」を追加 併せて科目名の変更・成績評価に関する異議申立について追加・（学位論文審査用）正誤表は研究計画書用P26,P29 文言の修正および後期課程・現便覧のP204以降に「研究生規定」の追加

などであった。

④時間割

昨年度、時間割編成の基本的な考え方や表枠・入力方法等を整理し事務局へ引きつなされた。看護基盤分野及び共通基盤分野科目を記載した時間割Aが3月に作成された後、各領域別科目を記載した時間割Bを作成すること、学生への説明は、入学ガイダンス時に時間割Aを、領域別ガイダンス時に時間割Bを説明することとなった。

⑤論文データの保存の取り扱い

大学院修了生の研究データの扱いについて内規の改正の必要性について説明があった。現在の内規に大学院修了生も対象になることを明示するとともに、大学院修了生に対する研究終了後のデータ保管のあり方等の教育と便覧への掲載、住所の追跡等について考えて行く必要があることが説明された。住所の追跡は事務局による管理が必要であることが確認された。また、現在、修了生のデータを保管している教員は、改正される内規に従い、教員個々の状況判断に基づき、可能であれば修了生個々に返却、不可能な場合はこれまで同様保管の方向で検討する。

⑥成績疑義の対応

成績評価に関する学生からの異議申し立てについて、学部教務委員会と大学院教学委員会の代表でワーキンググループを作り検討し成績異議に関する学則（大学院及び学部）を作成した。同時に異議申し立て書も作成した。

⑦新入生及び学年ガイダンス

入学式当日、新入生博士後期課程4名、博士後期課程13名（15名入学、2名休学）に対してガイダンスを行った。同日、M2生に対してもガイダンスを実施した。M2生に対しては論文提出および審査日程の確認について資料を用いて説明を行った。

⑧大学院説明会の開催について

入学委員会と連携し6月22日（土）16時から17時30分どこでもカレッジ後、10月5日（土）16時から17時30分に地域課題研究発表会の後に大学院博士前期課程および後期課程入試説明会を実施した。

⑨大学院生向け特別セミナーの開催および文献検索特別講義について

12月10日（火）10時30分から12時に特別セミナーを教育学舟島研究科長が中心となり開催した。テーマは「ライフワークとしての看護教育学研究」として群馬県立県民健康科学大学教授 山下暢子先生による特別セミナーが行われた。参加者は大学院生の他に大学職員であり25名が参加し好評であった。チラシの作成や学生への配付等の準備を事務局で行われた。

同日13時から16時に文献検索特別講義を教学委員会主催で開催した。テーマは「研究の質向上に向けた文献検討に必要な知識と技術～文献検索の技術として～」として国立看護大学教授亀岡智美先生であり、参加者は大学院生および教職員であり21名が参加した。参加者からは学びが深まり好評であった。日程について他の授業との重なりがあり参加できない学生がおり、次年度は8月に計画したい。

⑩大学院を新たに担当する教員の選考

大学院看護学研究科修士課程を担当する専任教員の選考に関する申し合わせ資料に基づき検討した。研究補助教員2名が承認された。

⑪令和元年専門看護師実践活動報告会の開催

令和元年10月5日12時30分から13時50分（地域課題研究発表会と同時開催）に実施した。昨年度任命した3名（老年看護CNS1名、がん看護CNS3名）から発表をした。参加者からは好評であった

⑫高度実践看護師教育課程の科目追加認定申請及び科目名変更申請について

CNSコースの共通科目に「看護教育学」を追加認定、がん看護専門看護師教育課程の科目名を「がん高度実践看護学実習Ⅰ～Ⅴ」（学が入る）に変更申請する旨の説明があり、本日の委員会で承認された。研究科委員会を経て、申請し承認された。

⑬大学院博士前期課程学生における前期修了に関すること

博士前期課程学生より前期修了の希望があったが、大学院規定によると前期修了は『特別な理由』のみ認めることになっており、検討を行った。今回においては特別な理由として前期修了を承認した。今委員長から、本学博士前期課程で前期修了と後期修了の2回論文審査を行っている取扱いについて、他の看護系大学院の状況や本学の過去の状況について説明があり、意見交換が行われた。その結果、本学

大学院学位規程第7条第3項において「学位論文の審査及び最終試験は、毎年2月末日までに行うものとする。ただし、特別の事由があるときは、研究科委員会の議を経て、その時期を別に定めることができる。」と規定されていることについて、その解釈が全指導教員に十分共有されるよう、博士後期課程の完成年度となる次年度を目途に検討していくことが確認された。また、「特別な理由」について共通認識を図りたいとの提案があり、意見交換を行った。

⑭大学院生追跡登録について

学院在学時の研究データ等を適切に管理するため、修了後の連絡先を登録するための登録票とそのデータを更新するため大学ホームページ内に新たなフォームを設定することについて提案があり、フォームを外部委託で作成するための費用を大学院経費で支出することを含め承認された。

⑮博士後期課程の研究計画審査について

開学して初めての博士後期課程における研究論文計画審査が始まり、その審査における基準・手順について再確認したいと提案があった。現規定では詳細が不確定な部分があることが話し合われた。規定改正の必要性やその内容を見据えて、問題点・改正点を見直し、本委員会で検討して行くこと。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 社会人が学習しやすい環境を整える目的で遠隔講義について検討する。
- (2) 博士後期課程が完成年度を向かえるにあたり、『論文博士』を出す準備をする。ワーキンググループを立ち上げ検討する。(舟島研究科長、石田委員長、小野教授)
- (3) 博士後期課程完成年度に向けて計画審査基準・論文基準、手順やフロー、審査委員の選定方法、学生への提示のあり方等、ワーキングを立ち上げ検討する方向性で検討された。
- (4) 新型コロナウイルス流行時の研究計画書(研究データ収集等)の対応について検討する。

1. 委員会構成

委員：◎岩永 喜久子、○大久保 明子、舟島 なをみ、小野 幸子、中村 義美
高柳 智子、樺澤 三奈子、徐 淑子
事務局：森田 裕美

2. 活動概要

(1) 入学者の選考に関する事項

①令和2年度大学院入学者の選抜試験の実施

大学院博士前期課程の入学者選抜試験を令和元年8月29日(8月入試)と令和2年1月30日(1月入試)に、大学院博士後期課程の入学者選抜試験を令和2年1月30日に実施した。最終的に、令和2年度大学院入学者として博士前期課程8名、博士後期課程2名が選抜された。なお、令和元年度の博士前期課程科目履修生1名、博士後期課程科目履修生1名が受験し2名とも合格した。

②令和2年度科目等履修生入学者選考の実施

令和2年度大学院博士前期課程と大学院博士後期課程の科目等履修生を募集した。大学院博士前期課程の科目等履修の応募はなかったが、大学院博士後期課程の科目等履修の応募者は2名(4科目)であった。規定に基づき審査を行い全員合格となった。

(2) 大学院(博士前期課程・後期課程)入学定員充足と周知への取り組み

①大学院説明会の実施

入学定員充足と大学院周知目的で、大学院博士前期課程と後期課程ならびに科目等履修について大学院説明会を実施した。学内においては令和元年6月と9月に、学外においては令和元年12月に新潟市で実施した。なお、大学院修了生2名による大学院での学びに関するプレゼンテーションを2回行った。

②大学院の周知活動

大学院説明会以外の周知活動を次のように行った。大学院のホームページを充実させると共に、大学院博士前期課程と後期課程のアドミッションポリシーを大学案内のチラシ、学生募集要項などに掲載するとともに関係団体等へ配布した。さらに、学内教員や大学院修了生、在学生の学習体験などを通して周知活動を行い、学内の学士課程1年次から4年次の学生への説明、県内外の関係団体や看護職研修会等における説明、及び県内外の病院へ出向き直接説明するなどして大学院入学について広く周知した。

③大学院博士前期課程の授業体験への取り組み

昨年度から引き続き大学院博士前期課程の授業を体験してもらい取り組みを行った。今年度は、県内の入学者が少ないことから対象を県内の看護職に絞った募集を行い、大学院を知ってもらうこととした。体験できる受け入れ科目の準備や調整を行い延べ人数15名が受講した。受講申し込み方法を見直し、ホームページの充実を図った。

(3) 大学院入試ミスの発生防止に係る取り組み

大学院入学者選抜における試験問題の出題・採点ミス防止について、入試実施までのプロセスに間違いがないかチェックリストを用いて確認した。

(4) 予算の執行状況について

令和元年度の予算額50,400円の執行額は45,934円であった。

3. 次年度の課題

- ①次年度も引き続き、大学院入学定員充足と周知への取り組みを行う。ホームページやチラシを充実させた広報と共に、直接病院や関係団体を訪れ大学院入学試験について説明する。
- ②新潟県内の大学院受験者や入学者が少ないことから、特に、県内を対象とした大学院広報のための大学院前期課程科目の授業体験を実施する。

- ③大学院入学者選抜における試験問題の出題・採点ミス防止について再確認する。
- ④大学院博士前期課程の入学者選抜のあり方について再検討する。
- ⑤大学院博士後期課程における論文博士の運用について検討する。